



第4章

計画の内容

1

施策の推進に 当たっての視点

市の地域特性や市民意識調査・ヒアリング調査，
国及び東京都の文化芸術政策の動向も踏まえ，
市の文化芸術推進ビジョンを策定するに当たっての視点を整理します。

(1)

誰もが文化芸術を鑑賞でき， 参加し，創造することができる 地域づくり

●文化芸術基本法では，文化芸術に関する施策を推進するに当たり，国民が「等しく文化芸術を鑑賞し，これに参加し，または創造することができるような環境整備が図られなければならない」と規定されています。なお，市は，子どもから大人まで誰もが文化芸術を育むことができるよう，平成27年11月の市制施行60周年記念式典で行った「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」に基づき，すべての市民が豊かな文化芸術活動を楽しむことができるよう，様々な文化芸術の推進に向けた取組を展開しています。また，多彩な文化芸術に触れる機会が充実し，市民の文化芸術活動が一層活性化するため，市基

本計画の施策に位置付けた基本的取組を推進しています。

●障害者文化芸術推進法では，国及び自治体の責務として，文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図ることが定められ，地方公共団体における計画の策定が努力義務とされました。市は「パラハートちょうふ」の理念の下，共生社会の充実に向けた文化芸術の推進に取り組んでいます。

●本計画でも，これらを踏まえ，年齢，性別，障害の有無，国籍，経済的な状況などに関わらず，誰もが文化芸術に触れ，参加し，その創造に携われる環境づくりを推進していきます。

(2)

調布が誇る
歴史と文化を未来につなぎ、
まちの活力につなげる

- 市には下布田遺跡、深大寺、武者小路実篤、新選組局長近藤勇などに代表される豊かな歴史・文化資源があります。これらは、市民が“ふるさと調布”への誇りと愛着を育むための重要な要素です。
- 本計画でも、調布の文化遺産の継承と、子どもたちをはじめとする市民への普及を図ることを通じて地域の活性化の基盤としていくことを目指します。

(3)

市内の文化芸術関係の
団体や人材と
連携した取組

- 市には桐朋学園大学、白百合女子大学をはじめ多くの大学が立地し、文化芸術面での活動を積極的に行っています。また、市内の文化芸術団体や文化に関わる市民団体の活動も活発であるほか、地域ゆかりの多くのアーティストが存在しています。
- 市の文化芸術を推進するため、多彩な文化芸術事業の継続的な開催に当たっては、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団や調布市文化協会をはじめ、市教育委員会や協定締結大学等の教育機関のほか、調布市福祉作業所等連絡会や市内特例子会社など、多様な主体との連携を図っていきます。



多くの市民の皆様に見てもらい、文化芸術に興味を持ってもらいたいという本計画の策定検討委員の想いを受けて、第4章では、市内イラスト制作会社によるオリジナルキャラクター「AngryBabyz(アングリーベイビーズ)」全10種類が登場します。是非、キャラクターを探していただきながら、計画書をご覧ください。 ©CH.POCKET Co., Ltd

(4)

産業・観光・福祉・国際交流など
文化芸術以外の分野との
連携した取組

- 調布市には映画・映像関連産業や名誉市民水木しげる氏の業績をはじめとする文化芸術分野に関わる多くの地域資源があり、観光施策とも連携して事業を進めています。また、調布市パラアート展に代表されるように、福祉などの分野においても文化芸術面からの協働を行っています。また、国際交流の分野でも、文化芸術によって在住外国人の方との交流を図る事業を実施しています。
- 文化芸術基本法では、文化芸術の推進において、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他との有機的な連携を図るとされています。
- 本計画では、これまでの実績や国の動向を踏まえ、文化芸術の推進に当たっては、産業・観光・福祉・国際交流など他の分野との連携を積極的に推進します。

(5)

文化芸術の
推進に向けた各種取組を
広く発信

- 調布市の文化芸術に対する市民の認知を見ると、映画のまち調布 シネマフェスティバルや深大寺、グリーンホール、文化会館たづくりなどは既に高いものの、国内外の著名なアーティストが集う調布国際音楽祭や、せんがわ劇場などで実施している事業における認知が相対的に低いと捉えることができます。文化芸術を効果的に推進していくためには、事業や施設自体の内容に加え、市内外はもとより、国外に対する知名度を向上させていくことも重要です。このことにより、市民の調布に対する愛着を高められるとともに、市外における調布の認知度やイメージを向上させ、観光や商業・産業振興にもつなげていく必要があります。
- 本計画では、調布市の文化芸術の魅力を市内外に広めていくことについても計画に位置付けながら推進します。

2

基本的な考え

(1) 将来像

市は、都心に近接した利便性の高い立地特性と、武蔵野の面影を残す深大寺周辺や多摩川などの豊かな自然が調和したまちとして発展してきました。近年では、京王線の地下化を契機とする21世紀の調布のまちの骨格となる都市基盤整備や複合商業施設の開業によるまちづくりをはじめ、今後の駅前広場や鉄道敷地整備の完了により、まちづくりの成果が実を結ぶ節目を迎えます。また、世界的なスポーツ大会であるラグビーワールドカップ2019™日本大会と東京2020大会が市内で開催されたことによる多面的な効果のレガシーの継承・発展、とりわけ、パラリンピックの開催を踏まえた共生社会の一層の充実に向けて標ぼうする「パラハートちょうふ つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち」の下、様々な分野を通じた取組を展開しています。

こうしたまちの発展の中で、市内における歴史・文化資源である古刹・深大寺をはじめ、映画・映

像関連企業の集積を生かし、シネマコンプレックス等と連携した「映画のまち調布 シネマフェスティバル」を核とした「映画のまち調布」、名誉市民である水木しげる氏の功績を称え、広く偲ぶ取組である「ゲゲゲ忌」をはじめとした「水木マンガの生まれた街 調布」に加え、市と相互友好協力協定を締結する世界的に活躍するアーティストを数多く輩出する桐朋学園大学や、バッハ・コレギウム・ジャパンを中核に据え、国内外から著名なアーティストが集う「調布国際音楽祭」など、音楽のまちとして地域の文化芸術の振興に向けた各種事業を展開してきました。更に、市民の文化芸術・学習活動の発表の機会の1つである「調布市民文化祭」や、年齢や国籍を超えて大勢の参加者でにぎわう「調布よさこい」など、誰もが身近に文化芸術に触れることができる機会を継続的に設けています。これらの多彩な文化芸術事業の継続的な開催に当たっては、公益財団法人調

目指す将来像

“ ゆ た ぶ ん か げ い じゅつ
豊かな文化芸術の

布市文化・コミュニティ振興財団や調布市文化協会をはじめ、市教育委員会や協定締結大学等の教育機関のほか、調布市福祉作業所等連絡会や市内特例子会社など、多様な主体との連携を図ってきました。また、グリーンホール、文化会館たづくり、せんがわ劇場の文化施設3館をはじめ、郷土博物館、武者小路実篤記念館などの施設を整備し、地域の有形・無形の歴史的・文化的資源を守り、理解・愛着を深めるとともに、新たなまちの魅力やにぎわいを創出する文化芸術の拠点による環境整備に取り組んできました。

一方、コロナ禍を踏まえた文化芸術活動におけるデジタル化や、老朽化等を踏まえた安全で快適な文化施設の適切な維持管理に加え、国のガイドラインを踏まえた部活動の地域連携・地域移行の検討による若年層の文化芸術活動の充実に向けた環境整備など、文化芸術を取り巻く諸課題に適切に対応する必要があります。

本計画の策定に向けた検討委員会では、文化芸術は多様な人々の価値観や考え方に触れる機会であり、感性が刺激され心の豊かさが育まれるとの考えの下、地域の文化を知り、守り、伝えながら共有し、新たな創造へと繰り返すことで、文化芸術が薫るまちへと発展していく将来像を定めました。

今後も、市は、地域の強みとしての文化資源である多様な主体との連携の下、誰もが、一人一人の興味や関心、生活スタイルに応じて、それぞれの可能性が最大限に引き出されるよう、文化芸術を鑑賞し、参加・体験し、創造することができる環境づくりに取り組むとともに、その成果をまちづくりに生かせるよう取り組む中で、身近なまちの生活において文化を感じられるまちとなることを目指し、「調布市文化芸術推進ビジョン」における将来像の実現に向けた各施策を推進します。

か お ひ ろ ち ょ う ふ
薫り広がるまち 調布 ”

(2) 施策の体系と基本的な考え

将来像

“ 豊かな文化芸術の薫り広がるまち 調布 ”



施策1

誰もが鑑賞・参加し、
創造することができる
文化芸術を通した
共生社会の充実

基本的な考え

誰もが、年齢、性別、障害の有無、国籍、
経済的な状況などにかかわらず、多彩な文化芸術を
鑑賞、参加・体験し、豊かな心を涵養し、創造性を育むことが
できる環境づくりを推進します。文化芸術活動を通じて、
すべての人々が、それぞれの個性を尊重しながら、
相互に理解と共感を深められる共生社会の充実を目指します。

施策2

まちの多彩な文化資源を
生かした地域の活性化

基本的な考え

市内にある文化財、長年にわたり育まれてきた
伝統芸能や文学・映画・工芸・絵画等の
各分野における文化人など、地域ゆかりの
文化資源や歴史・文化遺産を保存・活用
することにより、次の世代に継承し、まちに対する
愛着を醸成し、地域の活性化を推進します。

施策3

多様な主体と連携した
特色ある文化芸術の推進と
担い手の育成

基本的な考え

調布市文化・コミュニティ振興財団や
調布市文化協会に加え、協定締結大学、
協定締結団体など、多様な関係団体との連携の下、
調布ならではの文化資源を活用した特色ある
文化芸術を推進します。また、とりわけ若年層を中心とした、
地域文化の次代の担い手の育成を図ります。

施策4

関連分野との
有機的な連携による
文化芸術の推進

基本的な考え

文化芸術により生み出される多様な価値やその意義に鑑み、
文化芸術に関する施策の推進に当たっては、
観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育その他の
関連分野における各施策との有機的な連携を図ることで、
各関連分野における文化芸術を活用した新たな
付加価値の創造や課題解決に向けた取組を推進します。

施策5

市内外に向けた
文化芸術の魅力の
効果的な発信

基本的な考え

調布ならではの多彩な文化芸術の魅力や付加価値をはじめ、
文化芸術を活用した他の関連分野との取組について、
対象者の年代に応じた各種広報媒体の活用や
国際交流分野との連携の下、市内外（国外含む）へ向けた
効果的な発信を推進します。

施策

1

誰もが鑑賞・参加し、 創造することができる 文化芸術を通した 共生社会の充実

基本的な考え

誰もが、年齢、性別、障害の有無、国籍、経済的な状況などにかかわらず、多彩な文化芸術を鑑賞、参加・体験し、豊かな心を涵養し、創造性を育むことができる環境づくりを推進します。文化芸術活動を通じて、すべての人々が、それぞれの個性を尊重しながら、相互に理解と共感を深められる共生社会の充実を目指します。

施策の内容

1. 鑑賞機会の充実

誰もが文化芸術に触れる機会の充実に取り組みます。



©CH.POCKET Co., Ltd

- 文化施設3館（グリーンホール、文化会館たづくり、せんがわ劇場）における多彩で質の高い鑑賞事業の実施
- 公共スペースはもとより、民間施設と連携し、身近に文化芸術に触れることができる機会を創出する鑑賞事業の実施
- 障害のある方が制作した作品を含め、多彩な文化芸術活動による成果に広く触れることができる機会の創出
- 障害のある方や介護が必要な方を対象とした鑑賞サポートをはじめ、乳幼児や子ども連れの方、日本語が不自由な方など、「誰でも鑑賞することができる」環境整備の充実

具体的な取組



調布市パラアート展

市、調布市福祉作業所等連絡会 芸術（美術）

平成29年度から調布市福祉作業所等連絡会と共催で、作業所や特例子会社等で活動されている方々のアート作品を展示しています。令和5年度からは、より多くの方に関心を持っていただき、文化芸術の推進を通じた共生社会のより一層の充実につなげていくことを目的に「パラハートちょうふ meets ART」の一環として実施しています。「パラハートちょうふ meets ART」は、文化芸術の振興による共生社会の充実に向けて、多様な主体との連携により、多彩なアートとの出会いを通じて、調布市が掲げるキャッチフレーズ「パラハートちょうふ」を広める取組です。（出典：調布市パラアート展ホームページ）



彫刻のある街づくり事業

市

芸術（美術）

桜堤通り、日活調布撮影所近くの遊歩道1 kmにわたり、公募により選ばれた彫刻9点、モニュメント1点を展示しています。(出典：観光ナビ、市ホームページ)



えほんうた・あそびうたライブ＆トーク

市

芸術（音楽）

音楽家＆音楽療法士とおもちゃ楽器DJによる、歌と絵本、カラダ遊びを組み合わせたライブ＆トークです。パパもママも子どもと一緒に楽しむことができます。(出典：市ホームページ)



映画×アウトドア上映会「ねぶくろシネマ」

市、ねぶくろシネマ
実行委員会

メディア芸術
(映画)

トリエ京王調布B館ビックカメラの壁面を巨大スクリーンにして、みんなで楽しめるアウトドア映画上映会です。(出典：市ホームページ)



劇団芸優座 春の公演

市、劇団芸優座

芸術（演劇）

東京2020大会における文化面での機運醸成を図ることや市の魅力向上、公演を通して市内を拠点に活動する劇団を広く市民に知っていただき、市民の文化芸術の発展に寄与することを目的として、平成29年度から共催事業として「春の公演」を実施しています。(出典：市ホームページ)



東京室内歌劇場 スペシャルウィーク

市、東京室内歌劇場

芸術（音楽）

調布市と一般社団法人東京室内歌劇場は「調布市民の豊かな芸術文化活動を育む包括協定」を締結しています。この協定に基づき、オペラやコンサート等の舞台芸術を市民に親しんでもらうための公演招待、ゲネプロ観覧を行っています。(出典：ちょみっと、東京室内歌劇場ホームページ)



調布市中学校連合美術展

市教育委員会

芸術（美術）

市内の公立中学校8校及び調布特別支援学校の生徒の作品が出展されます。(出典：ちょみっと)



えんがわ文庫

図書館

芸術（文学）

令和5年11月1日にオープンした市民参加型の図書館です。りんご箱を本棚に活用した温かい雰囲気の中で本を閲覧できます。子ども向けの絵本なども多数配架しています。(出典：市ホームページ)



おはなし会

図書館

芸術（文学）

おはなし会では絵本の読み聞かせ、手あそびなどを行っています。(出典：市ホームページ)

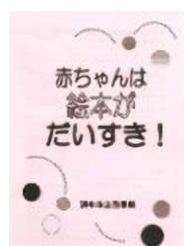


子どもの本に親しむ会

図書館

芸術（文学）

調布市立図書館では、毎年、子どもの本の作家や翻訳家、編集者の方をお招きし、子どもの本に関するテーマで講演会を開催しています。(出典：市ホームページ)



ブックスタート事業

図書館

芸術（文学）

絵本を読むことを通じて、誰もが楽しく、赤ちゃんとふれ合うひとときを持てるよう支援する事業です。調布市立図書館では、乳幼児健康診査時に、月齢に応じたおすすめの絵本リストの配付などを行っています。(出典：市ホームページ)



小さな小さな音楽会

財団

芸術（音楽）

文化会館たづくりのエントランスで開催される音楽会です。誰もが気軽に生の音楽を楽しむ音楽会として平成7年の開館当初から定期的に開催しています。(出典：財団基本計画)



障害特性に配慮した鑑賞サポート付き舞台公演

財団

伝統芸能、芸能など

字幕ガイドや手話通訳のサポートがついた伝統芸能や芸能の公演、色や振動で音を感じることができるコンサート、副音声やセリフ表示がついた演劇公演を実施しています。(出典：財団基本計画)



エレベーターホール・アートプロジェクト 財団

芸術（美術）

文化会館たづくり東館1階エレベーターホールでは、エレベーターを待つちょっとした時間を豊かなアート鑑賞の時間に転換させる試み「エレベーターホール・アートプロジェクト」を実施しています。障害者アーティストによる作品も活用し、広く障害者アートの発信と障害理解を普及啓発しています。(出典：財団)



文化会館たづくり展示室での展示

財団

芸術（美術）

絵画、彫刻、写真、テキスタイル、インスタレーションなどジャンルを問わず美術を紹介する自主企画展示を実施しています。令和6年度には、調布メディアアートラボと連携した体験型のメディアアート展も開催しました。(出典：財団基本計画)



せんがわ劇場 クリスマス演劇公演

財団

芸術（演劇）

せんがわ劇場では、若いファミリー世帯が多い仙川の地域特性を踏まえ、クリスマスシーズンに大人も子どもも楽しむことができる演劇公演を開催しています。(出典：財団基本計画)



劇場特性を活用した能・狂言、落語などの公演

財団

伝統芸能

能舞台や寄席舞台などホールの特性を生かした公演を実施しています。(出典：財団基本計画)



調布市内保育園・幼稚園児童劇鑑賞教室 財団

芸術（演劇）

未就学児が地域の劇場で舞台芸術に親しむ機会を得るため、童話などを題材にした児童劇鑑賞教室を実施しています。(出典：財団基本計画)



美術講演会

財団

芸術（美術）

都内美術館での展覧会に関連して、主催である日本放送協会などが企画する関連文化講演会に会場として申請し、広く美術に親しむ機会を提供しています。(出典：財団基本計画)



音楽とおはなし はじめてのコンサート

財団

芸術（音楽）

歌や楽器の音色に耳をすませたり、音楽に合わせて体を動かしたり、みんなで一緒に歌ったり、いろいろな音楽の楽しみ方を体験できる、0歳児から入場できるコンサートです。(出典：財団ホームページ)



クリスマスコンサート

財団

芸術（音楽）

クリスマスには毎年、若年層が気軽に文化芸術、劇場に親しみやすいよう、同世代で国内トップで活躍する実演家、アニメや映画などポップカルチャー性などのあるクラシック音楽コンサートを開催しています。

パラハートちょうふ meets ART

調布市では、文化芸術の推進による共生社会の充実に向けて、多様な主体との連携により、多彩なアートとの出会いを通じて「パラハートちょうふ」を広める取組を実施しています。

平成29年度から調布市福祉作業所等連絡会と共催で、各作業所等で活動されている方々のアート作品を展示する「調布市パラアート展」をはじめ、令和5年度には「調布市パラアート展」の応援企画として「ビッグハートプロジェクト」と題し、市内福祉団体に加え、調布ゆかりのアーティストやプロスポーツチームなど、様々な分野から多くの方々に参加・協力いただき、カラフルなガムテープで作った手のひらサイズのハートをつなぎ合わせた横5メートル、縦10メートルの大型アート作品を完成させました。令和6年度は、10月6日の世界脳性まひの日にあわせ、グリーンホールの館外を脳性まひの日のシンボルカラーであるグリーンにライトアップしたり、調布シネサロンでバリアフリー上映会を開催するなど、様々な取組を行っています。



事業特設サイト



文化会館たづくり館内アート展示

財団

芸術（美術）

平成7年の開館時から設置されている彫刻作品等のほか、7階から12階の窓に市の木として親しまれる「くすの木」が大きく描かれた小林万里子《ナンジャモンジャの樹》2020、1階から6階の階段室で各国の風景を臨む窓を模した角文平《World Tour》2018など、施設のスペースを活用したアート作品の展示を行っています。（出典：財団ホームページ） ©和田浩



せんがわ劇場芸術監督の企画・演出による演劇公演制作

財団

芸術（演劇）

せんがわ劇場では、実施する演劇公演の芸術・創造性を高めるため、芸術監督を配置しています。芸術監督は、自ら演出を手掛ける公演をはじめ、せんがわ劇場で実施する演劇事業全般を監修します。（出典：財団ホームページ）

2. 参加(体験・創造)機会の充実

誰もが気軽に文化芸術の体験や創造ができる機会の充実に取り組みます。

- 様々な文化芸術を体験し、創造することができるワークショップや講座などの事業を幅広く展開するとともに、障害者や介護が必要な方、乳幼児・子ども連れの方、日本語が不自由な方への参加サポートなど「誰でも参加できる」体制の強化
- 市民一人一人が主役となり、自由に表現できる事業の実施
- 文化芸術活動を実施している個人や団体への支援(活動場所の貸出・後援など)
- 障害者、在住外国人やその団体が文化芸術活動を実施する場合のサポート



調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト 市

芸術(美術)

平和首長会議が実施する「子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト」へ応募する作品を募集し、市でも独自で賞を設けて全作品の中から受賞作品を選定しました。市が選定した受賞作品は平和首長会議へ提出しました。(出典：市ホームページ)



シネマにGO!ちょうふ流

市,
Film Train

メディア芸術
(映画)

参加者の皆さんで、ベースの台本をもとにオリジナルストーリーを作り、その作った話を参加者の皆さん自身で演じ、1日でワンシーンの映画を制作する「大人が1日本気で遊べる」映画づくりワークショップです。また、プロの監督や映画関係者が、ストーリー作りのアドバイスや、撮影時の演出やカメラを行います。(出典：市ホームページ)



「映画のまち 調布」みんなのワークショップ 市

メディア芸術
(映画)

映画のまち調布 シネマフェスティバル2024の一企画として、映画・映像業界のプロ監修の下、「撮影」「照明」「録音」「美術」「演出」のチームに分かれて、短編映画の撮影体験ができるワークショップ「映画のまち調布」みんなのワークショップを開催しました。(出典：市ホームページ)



生涯学習出前講座 市

芸術(文学),
文化財など

生涯学習活動の支援の一環として、市民の皆さんが主催する学習会などの集会に市の職員等が出向き、それぞれの事業のご案内や、専門知識等を生かしたお話をします。(出典：市ホームページ)



生涯学習サークル体験事業 市

芸術, 生活文化
など

市内には現在700近くのサークルがあります。自分に合ったサークルを見つけるためのサークルの体験事業を実施しています。(出典：生涯学習情報コーナーホームページ)



調布CM

市, 城西国際大学 メディア芸術

より多くのお客様をお迎えしたい商店会と、CM制作の実習を通じて地域と連携した取組を行いたい城西国際大学メディア学部がコラボレーションし、学生が商店会をPRするコマーシャルを制作するものです。制作したCMは、調布市観光協会公式ホームページ「調布観光ナビ」でも紹介されます。なお、優秀作品コンテストで受賞した2作品については、イオンシネマシアタス調布にてプレアド（映画の始まる前の広告上映）上映されます。（出典：市ホームページ）



調布花火フォトコンテスト

市, 観光協会, 調布市花火実行委員会 芸術（写真）

調布花火で撮影した写真のコンテストです。カメラ部門／スマホ部門にわかれ、「花火の美しさ、醍醐味が写されたもの」「会場の臨場感、一体感、花火と調布のまちのコントラスト」「家族、友人、恋人と過ごしたひとときの思い出が写されたもの」など、調布花火を通して調布の魅力が溢れている写真を選出します。（出典：調布花火大会ホームページ）



調布市地域クラブ活動トライアル事業

市教育委員会 芸術（音楽、美術）など

調布市では、今後の少子化等を見据え、生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を持続的に確保していくため、現在の休日部活動を、今後、地域クラブ活動に移行していく予定です。地域クラブ活動では、既存の部活動に加え、生徒の多様なニーズに対応するため、新たな種目の立ち上げも検討しており、そのトライアル事業を実施します。（出典：市ホームページ）



じろとえがこう ほんのおえかきたいかい 図書館

芸術（美術、文学）

紙に自分の好きな本のことを絵に描いてもらい、中央図書館に提出していただき、それを中央図書館の子ども室で掲示します。（出典：市ホームページ）



ワークショップ「言葉アート素もとことばで実篤の世界を表してみよう！」

武者小路実篤 記念館 芸術（文学）

縦横斜め、自由に漢字を感じる視覚詩「素ことば」。実篤のイメージを4つの漢字で表して色紙作品を作ります。（出典：市報ちようふ令和6年11月5日号）



障害特性に配慮した鑑賞サポート付き舞台公演 ※再掲

財団 伝統芸能、芸能など

字幕ガイドや手話通訳のサポートがついた伝統芸能や芸能の公演、色や振動で音を感じることができるコンサート、副音声やセリフ表示がついた演劇公演を実施しています。（出典：財団基本計画）



TAC(Tazukuri Art Communication)プログラム

財団

芸術（美術）

ワークショップやトークイベントを開催し、美術の面白さ、楽しさをわかりやすく伝える取組を行っています。(出典：財団基本計画)



クリエイティブリユースでアート

財団

芸術（美術）

地域の見直されるべき資源である廃材を地元企業、商店から収集し、廃材を使った作品制作、展示、ワークショップを実施しています。さらに、映画のフィルム缶に廃材を並べて楽しむ「フィルム缶にアート!」や、廃材カードを使って様々な遊びができる「ちょうふのカケラカード」など、廃材を通じて調布の魅力や特徴を発見しながら、アートを身近に感じられる取組に挑戦しています。(出典：財団基本計画)



フィルム缶にアート!体験キットの貸出

財団

芸術（美術）

学校や福祉作業所など市内各所に体験キットを貸し出し、誰もが気軽に芸術に親しみ、創造できる環境づくりを推進します。(出典：財団基本計画)



ワークショップフェスティバル

財団

芸術（演劇）

せんがわ劇場で活躍する若手舞台芸術家たちが講師となり、多彩なテーマで、演劇や身体表現の楽しさを体験する機会を提供しています。(出典：財団基本計画)



演劇アウトリーチ

財団

芸術（演劇）

市内の児童館や学校等(学びの多様化学校、適応指導教室、特別支援学級等)、児童養護施設に向けて、それぞれのニーズに応じた演劇アウトリーチ事業を行っています。(出典：財団基本計画)



学習講座

財団

芸術（美術）、
メディア芸術など

文化会館たづくりを中心に、文化芸術に関連する座学・実技講座を実施しています。東京2020大会の機運醸成を機に伝統文化分野を拡充したほか、美術振興事業や映像文化・メディア芸術事業、芸術振興事業、国際交流事業と連携した講座を行っています。(出典：財団基本計画)



調布メディアアートラボ

財団

メディア芸術

映像文化・メディア芸術の多様な魅力を紹介するため、令和2年度から「調布メディアアートラボ」を開始し、ショートアニメーションやデジタル技術を活用したインタラクティブアートの体験型事業を実施しています。(出典：財団基本計画)



小中学校音楽アウトリーチ

財団

芸術(音楽)

奏者と聴き手が一体となれる体験を創り出すことで、児童・生徒に対して豊かな感受性や表現力、想像力を育くみ、主体的な学びを促します。楽器体験やワークショップなどを取り入れたプログラムやコンサートを企画・構成、コーディネートし、実演家を小中学校に派遣しています。



実演を体験する古典芸能ワークショップ 財団

芸能(落語)

実演家による手ほどきをうけて古典芸能を体験できるワークショップです。令和6年は、話芸・落語を体験できる「一和を紡ぐシリーズ 大衆芸能で御座い! 落語体験ワークショップ」を開催しました。(出典：財団ホームページ)



絵ばなし寄席

財団

芸能(落語)

落語とイラストが合体した“絵ばなし”で、情景や表情などの想像力をふくらませ、楽しく鑑賞できます。(出典：財団ホームページ、財団SNS)



キッズ伝統芸能体験事業 財団、東京都、アーツカウンシル東京、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 伝統芸能

はじめて伝統芸能に触れる子どもたちのための「和のお稽古」プログラム。プロの実演家から直接指導を受け、その成果を本格的な舞台上で発表します。(出典：財団ホームページ、撮影：武藤奈緒美)



文化協会実技講座・文化講座

調布市文化協会

芸術(音楽)

調布市文化協会に所属する団体が実技講座・文化講座を実施しています。令和6年度は前期7団体(いけばな連盟、囲碁連盟、将棋連盟、民謡連盟、民謡舞踊好会、洋舞協会、歌謡同好会連盟)、後期3団体(吟剣詩舞道連盟、大正琴連盟、美術協会)が講座を行います。(出典：調布市文化協会ホームページ)



明治大学リバティアカデミー コンサートホールで歌おう!Ⅰ・Ⅱ

明治大学

芸術(音楽)

明治リバティアカデミーは、相互友好協力協定大学である明治大学が、平成11年に開設した知的財産を社会に還元するために設置している生涯学習拠点。「コンサートホールで歌おう!」は、講師が歌唱指導を丁寧に行い、毎回アカデミーコモンのコンサートホールの舞台上でピアノと共に斉唱、または合唱します。(出典：明治大学リバティアカデミーホームページ)



明治大学
リバティ
アカデミー



明治大学マンドリン倶楽部調布演奏会 明治大学

芸術(音楽)

明治大学マンドリン倶楽部は、令和6年で創部100年を迎える明治大学のマンドリンオーケストラです。調布市・明治大学相互友好協力協定事業として、調布市で演奏会を行っています。(出典：明治大学マンドリン倶楽部ホームページ)



白百合女子大学 公開講座

白百合女子大学

芸術(文学),
メディア芸術など

白百合女子大学での研究や教育の営みが、今後思いもよらぬ形で地域や社会の中でつながり、多様で豊かな社会をつくりだすきっかけとなることを願い、公開講座を開催しています。令和6年度は「カナダ児童文学～動物物語に見る動物と人とのつながり」「コマ撮りアニメに挑戦!～アニメーション作りと生涯教育とのつながりを考える～」 「三島由紀夫生誕100年を前に」などを開催しています。(出典：白百合女子大学公開講座ホームページ)



白百合女子大学
公開講座



調布ジュニア映画塾

観光協会,
調布シネマクラブ

メディア芸術
(映画)

中学生を対象とした映画づくりのワークショップで、年に一度、夏休みの期間に開催しています。プロの映画監督や技術者の指導の下、撮影、監督、俳優、音声、編集などを、それぞれの参加者が担当し、皆で協力して一本の作品を作り上げ、上映会を行います。また、市内の映画・映像関連企業の見学も行います。(出典：市ホームページ)



施策の内容

3. 文化芸術を通した共生社会の充実

文化芸術を通して、市民一人一人が多様性を尊重し、相互理解が促進される機会の充実に取り組みます。

- 障害のある方、介護が必要な方、外国人などの交流の輪が広がるワークショップなど体験型事業の実施
- 障害のある方などが創造した芸術的価値が高い作品等の評価や販売等に係る支援
- 世代間交流ができる体験型事業の実施
- 自分らしさを表現し、自由に創造することができる事業の実施

具体的な取組



調布市パラアート展 ※再掲 市, 調布市福祉作業所等連絡会 芸術(美術)

「パラハートちょうふ meets ART」の一環として、平成29年度から調布市福祉作業所等連絡会と共催で、作業所や特例子会社等で活動されている方々のアート作品を展示しています。「パラハートちょうふ meets ART」は、文化芸術の推進による共生社会の充実に向けて、多様な主体との連携により、多彩なアートとの出会いを通じて、調布市が掲げるキャッチフレーズ「パラハートちょうふ」を広める取組です。(出典：調布市パラアート展ホームページ)



子どもたちと映画寺子屋上映会 市, 子どもたちと映画寺子屋 メディア芸術(映画)

育児などで忙しく、ゆっくり外出できない親子を対象とした上映会です。映画鑑賞を通じて映画に親しみ、同じ環境の親同士が集まって新たなつながりをつくること、お子さんの映画デビューを支援することを目的とし、2か月に1回程度、市民団体である、子どもたちと映画寺子屋が開催しています。(出典：市ホームページ)



調布市中学校連合美術展 ※再掲 市教育委員会 芸術(美術)

市内の公立中学校8校及び調布特別支援学校の生徒の作品が出展されます。(出典：ちょみっと)



CIFA各種交流サロン 財団 生活文化

日本人と外国人が、文化紹介などを通して交流し、お互いに理解を深めることを目的としています。茶道、俳句、そば打ち体験などの日本文化紹介、外国人による自国文化紹介を通して交流を行っています。また、日本人講師による日本の家庭料理の紹介、外国人講師による自国文化の紹介と交流を行っています。(出典：財団ホームページ)



CIFAニューイヤーパーティー

財団

芸術(音楽、
舞踊)など

毎年1月にニューイヤーパーティーを行い、日本の正月を祝い交流します。
200人程の参加者が集まり、各国のダンス、演奏などで大変盛り上がります。(出典：
財団ホームページ)



インクルーシブダンス・ワークショップ

財団

芸術(舞踊)

障害のある人となない人が、自然な身体表現を楽しみながら、共同で新しいダンス作品を
創造するワークショップです。またこの事業では、ダンスのファシリテーション人材を育
成したうえで、学校や福祉施設へ向けた幅広いアウトリーチを行い、障害理解の啓発や
障害者の文化芸術活動を推進します。(出典：財団基本計画)



CIFAフレンドシップデー

財団

生活文化

平成28年のはじめての開催から、CIFAのボランティアが企画運営してきた国際交流
イベントです。民族衣装などの展示や民族舞踏の競演、自国の遊びなどを通して国際交
流を楽しみます。(出典：財団ホームページ)



CIFA国際理解講座

財団

芸術(音楽、
舞踊)など

市民を対象に、国際理解や異文化理解のための講座を開催しています。(出典：市ホ
ームページ)



調布よさこい×パラアート展

財団

芸術(美術)

調布よさこいは調布市パラアート展と同日開催し、調布市パラアート展で作成した旗を
使用する演出のほか、福祉作業所のみなさんが、市内チームのメンバーと一緒にオーブ
ニングでよさこいを踊るなどしています。また、多様なお客様が安心して来場できるよう、
「UD会場」を設定するなどの取組をしています。(出典：財団)



劇場から地域とつながるプロジェクト

財団

芸術(音楽、演劇)
など

東京都立調布特別支援学校、調布市立小中学校支援学級の児童・生徒が、劇場・施設
を「居場所」と位置付け生きるための一つとして地域とつながれる「拠点」となることを目
指して、劇場・施設で文化芸術体験やワークショップなどを取り入れたプログラムを実
施しています。(出典：財団)



文化会館たづくり展示室

財団

芸術(美術)

車いす利用者を対象とした鑑賞補助ツールの貸し出しや、誰でも気兼ねなくゆっくりと鑑
賞できる「誰でもウエルカムDAY」の開催、やさしい日本語を活用した作品紹介など多
くの人が美術を身近に感じ、楽しめる取組を実施しています。(出典：財団SNS)

調布市パラアート展での関係団体や民間事業者との連携

調布市は、東京2020パラリンピックを契機として、「パラハートちょうふ つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち」のキャッチフレーズを掲げ、障害の有無、国籍、性別などによって分け隔てられることのない「共生社会の充実」につながる様々な取組を行っています。

平成29年度から調布市福祉作業所等連絡会との共催で、各作業所等で活動されている方々のアート作品を展示する「調布市パラアート展」を開催しています。令和6年度の「調布市パラアート展」では、“ハート”をテーマに作業所等で制作した応募作品の中から調布ゆかりのスポーツチームや企業

などがお気に入りの作品を選び、表彰するアワード部門が創設されました。令和5年度に調布市パラアート展の応援企画として実施した「ビッグハートプロジェクト」に参加・協力いただいた様々な団体とのつながりを生かした新たな企画です。文化会館たづくり2階北ギャラリーでは、受賞作品を含むアワード部門への応募作品を展示します。



テンジシツプロジェクト

財団

芸術(美術)

文化会館たづくり展示室では、令和8年度に開催予定の「調布における共生」をテーマにした展示企画に向け、令和6～7年度に多様な人々が集まり互いに話をするトークセッションを開催しています。(出典：財団)



エレベーターホール・アートプロジェクト ※再掲

財団

芸術(美術)

文化会館たづくり東館1階エレベーターホールでは、エレベーターを待つちょっとした時間を豊かなアート鑑賞の時間に転換させる試み「エレベーターホール・アートプロジェクト」を実施しています。障害者アーティストによる作品も活用し、広く障害者アートの発信と障害理解を普及啓発しています。(出典：財団)



ユニバーサル上映会 (映画のまち調布 シネマフェスティバル関連事業)

財団

メディア芸術
(映画)

映画を日本語もしくは英語字幕付きで上映し、上映後には、字幕や通訳等を付けたディスカッション形式のトークイベントを実施します。(出典：財団)

4. 文化芸術活動の場となる環境整備

市民の文化芸術活動の拠点である文化施設を、誰もが安全・安心して快適に利用することができる施設整備を推進します。

- バリアフリー化やアクセシビリティの向上につながる設備改修の計画的な実施
- 環境に配慮した設備改修の推進
- にぎわいの創出
- 有事の際の防災施設としての活用

具体的な取組



新たなグリーンホールの整備検討 ※再掲 市

文化施設

市は、グリーンホールの施設の課題への対応や、調布駅前広場の整備と連動し、新たなにぎわいを創出するため、新たなグリーンホールの整備に向けた取組を進めます。(出典：市ホームページ)



公立文化施設3館の温室効果ガスの削減・省エネルギー化

財団

文化施設

第4次調布市温暖化対策実行計画では、温室効果ガスの削減について、令和元年度の排出量を基準に、令和7年度までに8.4%以上削減、令和12年度までに33.8%以上削減することが目標とされています。この考え方に基づき、公立文化施設3館合計で達成できるよう、設備の運用改善とあわせて、照明のLED化など省エネ改修に取り組んでいます。(出典：財団基本計画)



公立文化施設3館のバリアフリー化

財団

文化施設

調布市バリアフリー特定事業計画に基づき、心のバリアフリーも含め推進します。(出典：財団基本計画)



公立文化施設3館の改修計画

財団

文化施設

財団はこれまで、公立文化施設3館の短期・中長期の改修計画について、積極的に提案し、調布市と緊密に連携しながら、施設の適切な維持管理と長寿命化に努めてきました。今後も、調布市の財政状況を踏まえ、優先状況を勘案しながら、効果的・効率的な改修計画の提案を行っていきます。(出典：財団基本計画)

施策

2

まちの多彩な 文化資源を生かした 地域の活性化

基本的な考え

市内にある文化財、長年にわたり育まれてきた伝統芸能や文学・映画・工芸・絵画等の各分野における文化人など、地域ゆかりの文化資源や歴史・文化遺産を保存・活用することにより、次の世代に継承し、まちに対する愛着を醸成し、地域の活性化を推進します。



©CH.POCKET Co., Ltd

施策の内容

1. 文化財の保存と活用

市内の文化財の保存と活用を図ることで、地域の活性化を図ります。

- 国史跡下布田遺跡の整備、普及・啓発事業の展開による地域活性化の推進
- 国史跡深大寺城跡等の文化資源を活用した、市の歴史・文化の情報発信の推進
- 祭ばやしや獅子舞などの市内における伝統芸能の保存及び継承活動への支援

具体的な取組



国史跡下布田遺跡整備事業の推進

郷土博物館

文化財

令和4年度に策定したガイダンス施設及び史跡公園の基本設計と、令和5年度に作成した実施設計に基づき、令和6年度は史跡整備工事（立川段丘面西部）と郷土博物館分室の解体工事を実施します。また、市民ワークショップを全8回実施し、史跡を活用した事業について検討、実施するほか、地元小学校や地区協議会等と連携して、地域の活力の向上に資する積極的な取組を展開します。（出典：郷土博物館令和6年度事業計画）



東京文化財ウィークへの参加

郷土博物館，
武者小路実篤記念館

文化財

調布市内に所在する文化財に関する講演会、市内の文化財を巡る文化財見学会、市内又は近隣自治体と連携しながら各種文化財を巡る文化財ウォーク、通常は公開されていない文化財の公開機会の拡大を図る特別公開事業を実施。（出典：郷土博物館令和6年度事業計画）



北多摩縄文スタンプラリー (多摩5市連携)

郷土博物館

文化財

貴重な縄文遺跡を持つ多摩5市（調布市、東村山市、国分寺市、国立市、西東京市）で連携し、縄文の魅力・歴史的意義をPRするとともに、地域振興及び広域観光の推進に努める（市長会助成金「多摩・島しょ広域連携活動助成金」活用事業）。（出典：郷土博物館令和6年度事業計画）



調布市郷土芸能祭ばやし保存大会

郷土博物館

地域文化芸術

「調布の祭ばやし」は市の無形民俗文化財に指定されています。市内各10地区のはやし連と3つの子供はやし連による笛や太鼓の演奏をはじめ、獅子舞、おかめ、ひょっこり踊りなどの競演が行われます。（出典：市報（令和6年7月5日号））



多摩川流域 郷土芸能フェスティバル

多摩川流域
郷土芸能フェスティバル実行委員会

地域文化芸術

多摩地域における最大のシンボルである「多摩川」とからめて、流域自治体である府中市、調布市、日野市、狛江市、多摩市、稲城市、小菅村、丹波山村の各自治体が連携を図り、流域交流を促進し、それぞれの自治体の活性化に結びつけることを目的として開催しています。（出典：郷土博物館令和6年度事業計画、アーツカウンシル東京ホームページ）



©CH.POCKET Co., Ltd

施策の内容

2. 地域ゆかりの歴史・文化を生かした事業の展開

郷土の歴史・文化遺産や地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動を生かした事業を展開することで、市民誰もが、身近な歴史・文化に親しむ機会の充実につなげます。

- 郷土博物館、深大寺水車館、武者小路実篤記念館、実篤公園を拠点とした展示・普及事業の推進
- 学校教育との連携

具体的な取組

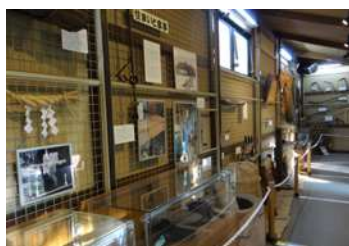


郷土博物館展示事業

郷土博物館

文化財

第1展示室（企画展示室）では年に4回程度、郷土の歴史・文化・芸術などに関するテーマ別の企画展示を開催しています。第2展示室（常設展示室）では、原始から現代までの調布の歴史を6つのテーマから紹介しています。（出典：市ホームページ）



深大寺水車館展示事業

郷土博物館

文化財

展示回廊にて、武蔵野台地における農業や暮らしの様子を、水車の歴史とともに紹介しています。（出典：郷土博物館令和6年度事業計画）



深大寺水車館そばひき実演

郷土博物館

文化財

水車館水車を使用する事業として、そば祭り期間に合わせたそばひき実演を実施します。（出典：郷土博物館令和6年度事業計画）



出前授業

郷土博物館

文化財

市内小・中学校と連携して、史跡や文化財に関する出前授業や体験学習を実施します。（出典：郷土博物館令和6年度事業計画）



武者小路実篤記念館展示事業

武者小路実篤
記念館

芸術（文学）

雑誌『白樺』や書画製作などの文学・芸術活動や、新しき村の運動など、実篤の幅広い活動を多角的に紹介するために、展示は常設とせず、4週間から5週間の会期で展示替えを行っています。春と秋の年2回は特別展、そのほかの6回は館蔵品を中心としたテーマ展です。



深大寺恋物語

深大寺短編恋愛
小説実行委員会

芸術（文学）

深大寺の発祥は、その名前の由来でもある「深沙大王」という神様にまつわる「縁結び」の物語に由来する、と伝えられています。この由来にちなんで、深大寺界隈の豊かな自然や花と緑を盛り込んだラブストーリーを募集しました。（出典：市ホームページ）



森の地図スタンプラリー

武蔵野
コッツウォルズ

文化財

武蔵野地域を市の枠を超えて広域に回遊する「森の地図スタンプラリー」を開催。ほぼ半径5kmの緑豊かな地域を約1か月半の間にのんびり、ゆっくり巡ります。毎年、春と秋にテーマを決めてラリーポイントを設定、公園や博物館、カフェなど多彩なポイントがなります。スタンプを押すことだけが目的ではなく、道の途中で何かを発見したり、出会いや体験を楽しみます。（出典：武蔵野コッツウォルズホームページ）

施策の内容

3. 市ゆかりの文化人を生かした取組

調布市ゆかりの文化人、アーティストを生かし、
調布ならではの文化の創造と継承を図っていきます。

- 桐朋学園大学関係者・出身者やバッハ・コレギウム・ジャパンをはじめとした調布市に関わりのある音楽関係者・団体等との連携
- 調布市ゆかりの映像関連の企業やアーティストとの連携
(調布市の映画撮影所やポストプロを利用しているスタッフやキャストなど)
- せんがわ劇場が擁する若手舞台芸術家グループ「DEL(デル)」をはじめとする演劇関係のアーティストや団体等との連携
- 中川平一氏、つげ義春氏などの調布市ゆかりの画家、彫刻家、写真家、漫画家などのアーティストとの連携
- 武者小路実篤、水木しげる氏など著名な文化人や近藤勇などの歴史文化の人物に関わる功績の伝承・継承

具体的な取組



ゲゲゲ忌

市

メディア芸術
(漫画)

「水木マンガの生まれた街 調布」では、名誉市民水木しげる氏の功績をたたえ、命日の11月30日を「ゲゲゲ忌」とし、水木しげる氏ゆかりの地を巡るイベントなどを毎年開催しています。(出典：市ホームページ)



「マンガ家・つげ義春と調布」展

図書館

メディア芸術
(漫画)

つげ義春氏の作品は、現在も世代を超えて漫画界だけでなく、幅広い芸術分野から高く評価され、国際的にも注目を浴びています。本展では、複製原画や写真などで、作品に描かれた調布の風景、ご家族との暮らし、映画化された作品について紹介しました。(出典：図書館ホームページ)



中川平一作品展

風景画でたどる調布のいまむかし

郷土博物館

芸術(美術)

市内在住画家の中川平一氏から寄贈していただいた調布の風景の移り変わりを描いた作品等を紹介しました。(出典：市ホームページ)

特別展「仙川の家－
武者小路実篤、終の住処での20年－」武者小路実篤
記念館

文化財

文学、新しき村、書画など多方面にわたり活動した武者小路実篤。子どもの頃から「年をとったら水のあるところに住みたい」と願い続け、70歳の時に、自ら歩いて見つけた東京・調布に新居を建て、移り住みました。京王線の仙川駅に近いことから「仙川の家」と呼び、妻と二人きりの静かな生活を送りながらも、次々と舞い込む仕事に励み、90歳で亡くなるまで忙しくも充実した日々を過ごします。特別展では、仙川の家での実篤の活動と暮らしを紹介するとともに、それを支えた建築や家具などにも注目。実篤の最後の20年間を振り返りました。(出典：市ホームページ)



ゲゲゲギャラリー

財団

メディア芸術
(漫画)

文化会館たづくり1階の「ゲゲゲギャラリー」では、水木しげる氏の作品を紹介しています。(出典：財団基本計画)



マチトリドリ ～調布を描くイラスト展～ 財団

芸術(美術)

「調布」をテーマに、「街」「自然」「人々」を描いている調布にゆかりのある3人の作家を紹介。会期中は会場内に巨大な調布MAPが登場し、「モグモグ」「ワクワク」「テクテク」などキーワードに沿って来場者が思い思いに調布を紹介するコーナーを設置、また、各作家の視点と画材で、自分の見つけたマチの姿を描くワークショップ「アーティストと描くあなたのマチ」を実施しました。(出典：財団ニュースリリース)



武者小路実篤記念館移動展

財団、武者小路実篤
記念館

芸術(文学)

文化会館たづくり展示室では武者小路実篤記念館との共催展示を開催し、実篤の業績を紹介しています。(出典：財団基本計画)



バッハ・コレギウム・ジャパンとの協定事業 財団

芸術(音楽)

財団とバッハ・コレギウム・ジャパンの相互協力提携に関する協定にもとづき、公開リハーサルなどを実施しています。
(出典：財団基本計画)



近藤勇生誕地まつり

近藤勇と
新選組の会

文化財

調布市(上石原)は新選組局長近藤勇の生誕地です。毎年、近藤勇の座像がある西光寺で「近藤勇生誕地まつり」が行われています。令和6年には旧甲州街道の西調布駅入口交差点で、「新選組局長 近藤勇 生誕190周年」デザインマンホール蓋の設置式が行われました。(出典：調布観光ナビホームページ)



深大寺本堂特別拝観 「ゆかりの人物・中西悟堂と深大寺の鳥たち」

深大寺

文化財

調布市指定文化財の本尊・宝冠阿弥陀如来坐像とあわせて、野鳥の父・中西悟堂と深大寺所蔵の鳥の絵画や工芸を紹介します。(出典：市ホームページ)



仙川安部公房生誕100年祭～ 調布に住んだ文豪

仙川 安部公房生誕
100年祭実行委員会

芸術(文学)

小説家・劇作家などとして活躍した安部公房は、昭和29年から平成5年に亡くなるまで、調布・仙川の地で暮らしました。令和6年に生誕100年を迎えたことを記念して、仙川安部公房生誕100年祭を行い、映画『砂の女』、『おとし穴』の上映に加え、安部公房研究の第一人者である鳥羽耕史氏(早稲田大学教授)、俳優座の川口敦子氏(俳優)、真知夫人と親交があった山口三詠子氏をお迎えし、安部公房が調布に築いた功績や知られざる素顔に迫りました。(出典：100年祭ホームページ、市ホームページ)

調布ゆかりの文化人

水木しげる

漫画家として50年以上の経歴を持ち、数多くの作品を世に出されており、特異な世界や妖怪たちを独特の感性で親しみをこめて描いてこられました。昭和34年に調布市にお住まいになられたことを機に、図書館だよりの表紙絵の原画の提供や、市内を走るミニバスの車体に描かれた鬼太郎ファミリー、天神通り商店街のオブジェや鬼太郎茶屋などが多くの市民に親しまれています。多くの市民から愛され、親しみを持って受けとめられ

ていることから、平成20年3月に調布市名誉市民になりました。

平成22年には、NHK連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』の舞台が調布であったことから、ドラマの撮影が行われた深大寺を中心に国内はもとより海外からも多くの方が調布市を訪れました。

市は、水木しげる氏の功績をたたえ、命日である11月30日の「ゲゲゲ忌」を中心に、水木しげる氏を偲ぶ様々なイベントを開催しています。

プロフィール

大正11年 3月8日生まれ。太平洋戦争時、ラバウルに出征、爆撃を受け左腕を失う。

昭和34年 調布市に転居し『ゲゲゲの鬼太郎』をはじめ数々の傑作を生み出す。

平成27年 11月30日に御逝去

代表作は『ゲゲゲの鬼太郎』『悪魔くん』『河童の三平』など。

(出典：市ホームページ)

調布ゆかりの文化人

つげ義春

50年以上にわたり調布市に居を構え、数々の名作を世に送り出されているマンガ家であり随筆家です。貸本漫画家時代を経て昭和40年から、マンガ史上大きな足跡を残した『月刊漫画ガロ』を中心に広く活躍されました。代表作『ねじ式』

『紅い花』『無能の人』のほか、エッセイ『つげ義春日記』『貧困旅行記』など、その独特の作品世界とリアリズムを追求した精緻な絵は幅広い分野から高く評価され、世界的に注目を浴びています。

プロフィール

昭和12年 東京都葛飾区に生まれる。

昭和29年 17歳で雑誌『痛快ブック』に投稿したマンガが採用され、翌年『白面夜叉』で実質的にデビュー

昭和41年 『月刊漫画ガロ』に「沼」「チーコ」「初茸がり」等を発表。同年2月、マンガ家水木しげる氏の仕事を手伝うため調布市に転居

令和2年 フランスの第47回アングレーム国際漫画祭において、特別栄誉賞を受賞

令和4年 功績のある芸術家を表彰する日本芸術院のマンガ部門の会員となる。

(出典：図書館「つげ義春と調布展」チラシ)

調布ゆかりの文化人 武者小路実篤

明治43年に志賀直哉、有島武郎、柳宗悦らと雑誌『白樺』を創刊し、以後、60年余にわたって文学活動が続けてきました。小説『おめでたき人』『友情』『愛と死』『真理先生』、戯曲『その妹』『ある青年の夢』などの代表作、また多くの人生論を著したことで知られ、一貫して人生の讃美、人間愛を語り続けました。大正7年には「新しき村」を創設し、理想社会の実現に向けて、実践活動にも取り組みました。

『白樺』では明治44年にロダンへ浮世絵を贈り、その御礼として3点の彫刻を贈られたのをはじめ、大正6年にはセザンヌやゴッホ作品を寄附で購入して美術館を建設する運動を展開、昭和11年の欧米旅行では各地の美術館を訪ねるなど、美術にも関心が深く、多く評論を著しています。

また、自らも40歳頃から絵筆をとり、人々に親

しまれている独特の画風で、多くの作品を描きました。実篤はその生涯を通じて、文学はもとより、美術、演劇、思想と幅広い分野で活動し、語り尽くせぬ業績を残しました。

昭和30年、実篤は水のあるところに住みたいとの希望をかなえ、現在：調布市若葉町の湧水と池のある地を求めて引っ越し、昭和51年に亡くなるまで20年余りを過ごしました。

昭和51年の逝去後、ご遺族から調布市へ邸宅と実篤の愛蔵品や遺品が寄贈され、昭和53年に実篤公園が開園、昭和60年には隣接地に武者小路実篤記念館が開館しました。

以後、「武者小路実篤、白樺、新しき村」を主なテーマとして、あわせて、ゆかりの作家、芸術家たちの作品を紹介。文学、美術に限らず幅広い内容で、常設展とせず、年8回程、約5週間程度で展示替えをして多彩な展覧会を開催しています。

プロフィール

明治18年	現在の東京都千代田区一番町に生まれる。
明治43年	『白樺』を創刊、文壇にデビューする。
大正7年	新しき村を創設。自らも宮崎県木城町石河内の村で生活する。
大正8年	代表作となる小説『友情』を発表
大正14年	新しき村を離れ、以後、奈良、東京へ転居。この頃から、熱心に絵を描き始める。
昭和23年	志賀直哉、長与善郎、安倍能成らと共に『心』を創刊
昭和26年	文化勲章を授章
昭和30年	調布市入間町荻野468（現：若葉町1-23-20）の新居に移る。
昭和40年	東京都より名誉都民称号を贈られる。80歳を機に、以後、書画への署名を常用漢字「実篤」に改め、満年齢を書き添えることとする。
昭和42年	実篤の後半生を描く自伝小説『一人の男』を45回連載（～昭和45年12月）
昭和51年	4月9日死去、享年90歳。調布市へご遺族から邸宅と実篤愛蔵の美術品や遺品が寄贈

（出典：調布市武者小路実篤記念館ホームページ）

調布ゆかりの文化人

中川平一

中川平一氏は、約60年にわたり調布の風景・建物をペン画・水彩画で描き続けています。令和4年度に、甲州街道、深大寺、多摩川などをモチーフとする風景画をはじめ171点の作品を郷土博物館に寄贈していただきました。令和5年4月に、市長から中川氏に感謝状を贈呈しました。寄贈作品は、郷土博物館や市内施設での展示等でご紹介しています。

プロフィール

昭和14年	東京 新宿に生まれる。
昭和20年	調布に転居
昭和39年から	調布市立染地小, 第三小, 上ノ原小, 深大寺小, 杉森小に勤務しながら, 近隣の風景を描く。
平成16年	文化会館たづくりにて「中川平一風景画展 調布を描いて40年」開催以降, 5年ごとに個展開催, 「中川平一風景画集1」出版
平成27年	調布市市政功労賞(芸術・文化)受賞
令和2年	『中川平一風景画選集 調布を描いて55年(愛蔵版)』出版
令和5年	作品171点を調布市郷土博物館に寄贈

(出典：市ホームページ)

多様な主体と連携した 特色ある文化芸術の推進と 担い手の育成

基本的な考え

調布市文化・コミュニティ振興財団や調布市文化協会に加え、協定締結大学、協定締結団体など、多様な関係団体との連携の下、調布ならではの文化資源を活用した特色ある文化芸術を推進します。また、とりわけ若年層を中心とした、地域文化の次代の担い手の育成を図ります。

施策の内容

1. 調布ならではの文化芸術の創造、人材育成の実施

地域における多様な主体と連携した文化芸術の創造や担い手としての人材育成に取り組めます。



©CH,POCKET Co., Ltd

- 調布市ゆかりの文化資源を活用し、独自性の高い価値の創出
- 人材育成につながる演劇事業や音楽事業のほか、アウトリーチ事業の実施

具体的な取組



調布国際音楽祭 フェスティバル・オーケストラ

市、財団

芸術（音楽）

「調布国際音楽祭」の一環として、若手演奏家が技術を向上させるとともに、地域の文化芸術振興の担い手となるための育成プログラムを行っています。講師は国内トップクラスの演奏者が担当し、若手演奏家を指導します。指導を受けた若手演奏家は、「フェスティバル・オーケストラ」に出演する機会が得られ、講師も首席演奏者として共に演奏します。このほか、若手演奏家は、地域の様々なサテライトコンサートにも出演することで、クラシック音楽の普及啓発事業に携わります。（出典：財団基本計画）



せんがわ劇場演劇コンクール

財団

芸術（演劇）

単に優劣を競うのではなく、参加する実演家と、審査員、観客、ほかの参加者との交流・コミュニケーションをコンセプトにしたコンクールです。受賞団体には、せんがわ劇場での公演機会を提供します。上位進出団体は、任意によりDEL（デル）に加入し、アウトリーチ活動をはじめとする劇場事業に参加することができます。（出典：財団ホームページ）



せんがわ劇場DEL(デル)の育成

財団

芸術(演劇)

演劇コンクール出身の実演家を中心に構成するDEL(デル)は、せんがわ劇場を活用した人材育成プログラムです。演劇教育に関する講習やワークショップ、公演制作などを通じて次世代を担う実演家を育成します。(出典：財団基本計画)



文化ボランティア (CAS-ちようふアートサポーターズ)

財団

芸術(音楽, 美術)
など

市民が触れあい・交流し、文化芸術の推進を図ることを目的に、財団が運営するボランティア制度です。登録者は年々増加しており、公演や展示、講演会など様々な場面で活躍しています。(出典：財団基本計画)



インクルーシブダンス・ワークショップ

※再掲

財団

芸術(舞踊)

障害のある人となない人が、自然な身体表現を楽しみながら、共同で新しいダンス作品を創造するワークショップです。またこの事業では、ダンスのファシリテーション人材を育成したうえで、学校や福祉施設へ向けた幅広いアウトリーチを行い、障害理解の啓発や障害者の文化芸術活動を推進します。(出典：財団基本計画)

2. 関係団体と連携した取組の推進

関係団体との連携の下、調布ならではの地域文化を育みます。
また、生涯を通じて文化芸術活動を楽しむことができるよう、
生涯学習との施策横断的な視点で取り組みます。

- 市民文化祭をはじめ実技講座や講演会など、
多彩な活動を市とともに連携して実施している調布市文化協会との連携
- 世界的な音楽家を輩出している桐朋学園大学など、協定締結大学と連携した取組の推進
- 市民の豊かな文化芸術活動を育むための協定を締結している
「芸優座」、「東京室内歌劇場」と連携した取組の推進

具体的な取組



東京室内歌劇場 スペシャルウィーク ※再掲

市、
東京室内歌劇場

芸術（音楽）

調布市と一般社団法人東京室内歌劇場は「調布市民の豊かな芸術文化活動を育む包括協定」を締結しています。この協定に基づき、オペラやコンサート等の舞台芸術を市民に親しんでもらうための公演招待、ゲネプロ観覧を行っています。（出典：ちょみっと、東京室内歌劇場ホームページ）



相互友好協力協定を締結した 大学との連携事業

市、各大学

芸術、
メディア芸術

電気通信大学、明治大学、桐朋学園（桐朋学園大学、桐朋学園芸術短期大学）、白百合女子大学、東京外国語大学、慈恵大学（東京慈恵会医科大学）、ルーテル学院大学と相互友好協力協定を締結しています。世界の諸地域における社会・歴史・文化の理解を深めることを目的に開催されている「TUFUS Cinema 映画上映会」（東京外国語大学）、チャペルコンサート（白百合女子大学、ルーテル学院大学）、合唱、楽器演奏、作曲などを楽しみながら学べる「ウィークエンドカレッジ・イブニングカレッジ」（桐朋学園芸術短期大学）など、市民を対象とした文化芸術関連の事業も数多く実施されています。（出典：市の資料）



調布CM ※再掲

市、城西国際大学

メディア芸術

より多くのお客様をお迎えしたい商店会と、CM制作の実習を通じて地域と連携した取組を行いたい城西国際大学メディア学部がコラボレーションし、学生が商店会をPRするコマーシャルを制作するものです。制作したCMは、調布市観光協会公式ホームページ「調布観光ナビ」でも紹介されます。なお、優秀作品コンテストで受賞した2作品については、イオンシネマ シアタス調布にてプレアド（映画の始まる前の広告上映）上映されます。（出典：市ホームページ）



調布まち活フェスタ

市、調布まち活
フェスタ実行委員会

美術（音楽、美術）
など

市内で市民活動をしている団体・個人の活動発表の場としてワークショップ、展示、ステージ発表など盛りだくさんのプログラムで開催します。（出典：市ホームページ）



調布まちゼミ

市、調布まちゼミ
実行委員会

芸術(文学、音楽)
など

商店街のお店の方が講師となって、専門店ならではのお店の専門知識や情報、コツを無料で教えるまちの中の少人数のゼミナールです。(出典：市ホームページ)



桐朋学園大学との協定事業

財団

芸術(音楽)

財団と桐朋学園大学の相互協力提携に関する協定にもとづき、グリーンホールでの定期コンサートなどを実施しています。(出典：財団基本計画)



調布 巡る アートプロジェクト

財団

芸術(美術)

令和2年12月14日から27日にかけて開催されたアートイベントです。プロジェクトのメインは9名の参加アーティスト及び福祉作業所によるアート作品の展示で、調布の街を巡りながら、また自宅にいながら、アートとの出会い・発見を楽しめる企画です。(出典：財団ニュースリリース) ※撮影：土田祐介



おらほせんがわ夏まつり

財団、仙川商店街
協同組合

芸術(演劇)

仙川商店街協同組合が主催する「おらほせんがわ夏まつり」では、例年、せんがわ劇場が会場の一つとなり、DEL(デル)メンバーが制作した演劇作品の上演などを行っています。(出典：財団基本計画)



仙川地域の学術機関との連携事業

財団

芸術
(演劇、美術)

仙川地域にある桐朋学園芸術短期大学や白百合女子大学と共催・協力し、自主製作公演のせんがわ劇場での実施や、若いファミリー層を対象としたワークショップなどを行います。(出典：財団基本計画)



文化協会生涯学習講演会

調布市文化協会

芸術(文学、美術)
など

調布市文化協会は過去にシンポジウムや懇談会、講演会(27回)を実施してきました。引き続き新たな企画や検討を行い推進していきます。(出典：調布市文化協会ホームページ)



劇団芸優座 春の公演 ※再掲

市、劇団芸優座

芸術(演劇)

東京2020大会における文化面での機運醸成を図ることや市の魅力向上、公演を通して市内を拠点に活動する劇団を広く市民に知っていただき、市民の芸術文化の発展に寄与することを目的として、平成29年度から共催事業として「春の公演」を実施しています。(出典：市ホームページ)



調布市民オペラ

NPO法人調布市民
オペラ振興会 芸術(音楽)

鑑賞、演奏の双方において、市民が気軽に親しめる本格オペラを調布のまちに根付かせようという思いを共有する人々により、平成3年に「調布市民オペラ振興会」が設立され、翌年第1回の調布市民オペラ『カルメン』がグリーンホールで開催されました。以来、グランドオペラ公演やコンサート等を定期的に実施しています。(出典：調布市民オペラホームページ)



ジュニアウインドオーケストラ

桐朋学園大学 芸術(音楽)

地域や学校を超えて集まるジュニアの仲間たち。桐朋学園大学講師・在学生メンバーの指導・協力によるウインドオーケストラが始まります。令和6年度に第1期スタートメンバーを募集し、令和7年3月には第1回演奏会を開催します。(出典：桐朋学園大学ホームページ)



ナンジャモンジャ防災コンサート

東京消防庁 芸術(音楽)

深大寺境内のなんじゃもんじゃの木の下で、東京消防庁音楽隊による防災コンサートを開催しています。このコンサートは、防火防災意識を高めるために、啓発活動の一環として平成元年から開催されています。(出典：ちょみっとホームページ)



調布市伝統文化交流会

調布伝統文化
伝承の会 伝統芸能,
生活文化

和楽器や舞踊、着物等の和の伝統文化による観光振興、並びにワークショップによる次世代への伝承と地域の活性化につなげることを目的に開催しています。



親子で歌い継ぐ 日本の歌百選を歌う会

親子で歌い継ぐ
日本の歌百選を歌い伝え継ぐ会 芸術(音楽)

「親子で歌い継ぐ日本の歌百選」に選ばれている名曲で調布にゆかりのある『今日の日はさようなら』や『思い出のアルバム』を中心に、百選の歌を歌う会を開催しています。



JAZZ ART せんがわ

JAZZ ART
実行委員会 芸術(音楽)

「JAZZ ART せんがわ」は、仙川地域のコミュニティの活性化を目的に、JAZZ ART 実行委員会が主催する即興音楽フェスティバルです。これまで街中でのパフォーマンスやワークショップ等も実施しています。

文化芸術団体との 協定締結に基づく取組

調布市は、平成28年5月1日に、一般社団法人東京室内歌劇場と「調布市民の豊かな芸術文化活動を育む包括協定」を、また、令和4年3月9日に、株式会社劇団芸優座と「調布市民の豊かな芸術文化活動を育むための協力協定」を締結しています。協定では、「市民が豊かな芸術文化活動を楽しむ・学ぶ場の創出」「調布市の魅力の発信」などの事項について連携することとしています。

株式会社劇団芸優座は、平成10年から市内に活動拠点を置き、文化庁の主催・助成公演、全国のホール・会館等公立文化施設の自主事業、教育委員会・小中高校の芸術鑑賞教育等で数多くの公演を実施しています。また、「調布市内小学校合同鑑賞会」公演の実施や市内文化施設等で自主事業として、「春の公演」を実施しており、演劇を通じて市民の芸術文化の発展に寄与していただいています。



劇団芸優座
ホームページ

一般社団法人東京室内歌劇場は、昭和44年設立の東京室内歌劇場を母体として平成25年に設立された、オペラ振興を目的とした団体です。オペラやコンサート等の舞台芸術を、せんがわ劇場や他の市施設等で、市民の皆様により親しんでいただくための取組について、ご協力いただいています。幅広い演目を日替わりで上演する「スペシャルウィーク」は、令和6年で12回を数えています。



東京室内歌劇場
ホームページ

(出典：市ホームページ、団体ホームページ、団体SNS)

調布市文化協会

文化協会は、芸術・文化の発信と振興を通し、加盟団体の発展と相互の連絡・調整を図り、市民の心の豊かさの向上を目的として、現在、20の加盟団体で構成されており、市民文化祭をはじめ実技講座や講演会など、多様な活動を推進しています。また、姉妹都市木島平村芸術文化協会との交流では木島平村夏まつりに参加しているほか、調布よさこいへの参加・協力など、市内関係団体とも連携した取組を実施しています。



文化協会
ホームページ



©CH.POCKET Co., Ltd

かん れん ぶん や 関連分野との ゆう き てき れん けい 有機的な連携による ぶん か げい じゅつ すい しん 文化芸術の推進

基本的な考え

文化芸術により生み出される多様な価値やその意義に鑑み、文化芸術に関する施策の推進に当たっては、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育その他の関連分野における各施策との有機的な連携を図ることで、各関連分野における文化芸術を活用した新たな付加価値の創造や課題解決に向けた取組を推進します。



©CH,POCKET Co., Ltd

施策の内容

1. 調布ならではの文化芸術を活用した まちのにぎわいの創出

調布ならではの独自の文化芸術を創造するほか、市のPR、にぎわいづくりにつなげていきます。

加えて、産学官民の知見や特性を生かした、関連分野における文化芸術の活用による課題解決を図っていきます。

また、文化芸術に関連した機関・団体と連携するほか、各関係部による庁内検討体制の下、行政評価と連動した計画の進行管理を行いながら、施策を推進します。

- 角川大映スタジオ、日活調布撮影所などの映画・映像関連企業が集積している地域特性を基盤とした「映画のまち調布」の推進
- 身近に文化芸術に親しみ、楽しむことができるまちづくりの推進
- 文化資源を活用した地域活性化の推進（再掲）

具体的な取組



文化発信ゾーン 鉄道敷地跡地整備

市

芸術（音楽、写真）
など

鉄道敷地については、これまで順次整備を進めており、市民自身が写真映える風景をSNS等に掲載することや音楽を奏でることによる情報発信、市にゆかりのある文化・芸術作品の展示による情報・魅力発信を行います。（出典：鉄道敷地整備に関するオープンハウス資料）



鉄道敷地跡地整備

市

メディア芸術
（映画）

調布市の特性である映画・映像関連企業が集積していることや、調布駅周辺には多摩地域最大級のシネマコンプレックスも建設されたことから、「映画のまち調布」の特色を生かした、調布のまちの魅力の向上、地域活性化を図ります。（出典：市ホームページ）



彫刻のある街づくり事業 ※再掲

市

芸術（美術）

桜堤通り、日活調布撮影所近くの遊歩道1kmにわたり、公募により選ばれた彫刻9点、モニュメント1点を展示しています。（出典：観光ナビ、市ホームページ）

「新選組局長 近藤勇 生誕190周年」
デザインマンホール蓋の設置近藤勇と
新選組の会

文化財

「新選組局長 近藤勇 生誕190周年」を記念したデザインマンホール蓋を製作・設置しました。クラウドファンディングを活用して製作したマンホール蓋です。令和6年に旧甲州街道の西調布駅入口交差点で設置式が行われました。（出典：市ホームページ）



トリエ調布の壁面イラスト

トリエ京王調布

芸術（美術）

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校卒業の絵描きMariya Suzukiさんがトリエ京王調布などパブリックエリアにイラストを制作。現在も市内で定期的に絵を描いています。（出典：「マチトリドリ～調布を描くイラスト展」財団ニュースリリース）

2. 多文化共生の推進に向けた取組

国際交流センターや関係機関等との連携の下、
国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化の違いを認め合いながら、
地域でともに暮らしていくことができる
多文化共生の地域づくりを推進します。

- 国際交流センターなどと連携した文化芸術による多文化共生の地域づくりの推進
- 文化芸術事業への在住外国人の参加による交流の推進
- 文化芸術などを通じた国際理解を深める事業の実施
- 文化芸術事業における多言語対応など在住外国人が参加しやすい環境づくり

具体的な取組



調布国際音楽祭 海外アーティストの招聘

市, 財団

芸術 (音楽)

国際交流プログラムで、海外からのアーティスト招聘を実施しています。(出典：調布国際音楽祭公式ホームページ)



調布国際音楽祭 海外の大学と連携した取組

市, 財団

芸術 (音楽)

令和元年度よりフェスティバル・オーケストラの参加者をアジア圏に広げる目的で、シンガポールのヨン・シウ・トゥ音楽院の留学生の受け入れを始めました。(出典：調布国際音楽祭公式ホームページ)



サウジアラビア文化展

市

生活文化

サウジアラビア王国と調布市の交流は2002 FIFA日韓ワールドカップで調布市がサウジアラビア王国代表チームのキャンプ地になったことから始まりました。サウジアラビアの民芸品、宝飾品、伝統的なテント等の展示に加え、サウジアラビアの「歴史」と「今」を写真パネルで紹介し、サウジアラビアの紹介映像や民族衣装を着て写真撮影もできます。(出典：市ホームページ)



CIFAニューイヤーパーティー ※再掲

財団

芸術
(音楽, 舞踊) など

毎年1月にニューイヤーパーティーを行い、日本の正月を祝い交流します。
200人程の参加者が集まり、各国のダンス、演奏などで大変盛り上がります。
(出典：財団ホームページ)



CIFA各種交流サロンイベント ※再掲 財団

生活文化

日本人と外国人が、文化紹介などを通して交流し、お互いに理解を深めることを目的としています。茶道、俳句、そば打ち体験などの日本文化紹介、外国人による自国文化紹介を通して交流を行っています。また、日本人講師による日本の家庭料理の紹介、外国人講師による自国文化の紹介と交流を行っています。(出典：財団ホームページ)



CIFA国際理解講座 ※再掲 財団

芸術
(音楽、舞踊) など

市民を対象に、国際理解や異文化理解のための講座を開催しています。(出典：市ホームページ)



CIFAフレンドシップデー ※再掲 財団

生活文化

平成28年のはじめての開催から、CIFAのボランティアが企画運営してきた国際交流イベント。民族衣装などの展示や民族舞踏の競演、自国の遊びなどを通して国際交流を楽しみます。(出典：財団ホームページ)



市内外に向けた 文化芸術の魅力の 効果的な発信

基本的な考え

調布ならではの多彩な文化芸術の魅力や付加価値をはじめ、文化芸術を活用した他の関連分野との取組について、対象者の年代に応じた各種広報媒体の活用や国際交流分野との連携の下、市内外（国外含む）へ向けた効果的な発信を推進します。

施策の内容

1. 調布ならではの文化芸術の魅力の 多様なコンテンツを活用した 市民向け、市外向け発信

市報や市ホームページを中心に、調布ならではの文化芸術の魅力を広く発信していきます。



©CH.POCKET Co., Ltd

- 市報やポスター等による発信のほか、あらゆる世代に対する効果的な情報発信
- 共生社会の重要性を踏まえた、わかりやすく、伝わりやすい広報の推進
- 映画のまち調布 シネマフェスティバル、調布国際音楽祭など、市の特徴的な取組と併せた広告

具体的な取組



パラハートちょうふ meets ART 市 芸術（美術） 特設サイト

パラハートちょうふ meets ARTの特設サイトを作成し、パラアート展をはじめ、市内で行われる誰でも参加できるイベント情報を紹介しています。



SNSによる情報発信 市、財団、武者小路実篤記念館 芸術、メディア芸術など

調布市公式X（2万2000フォロワー）、調布市LINE公式アカウント（3万715フォロワー）、調布市公式Facebook（2558フォロワー）、調布市公式Instagram（3380フォロワー）、財団公式X（3079フォロワー）、財団公式Facebook（832フォロワー）、財団公式Instagram（1222フォロワー）、財団公式Youtubeチャンネル（登録者数864）、郷土博物館公式X（1384フォロワー）、武者小路実篤記念館公式X（3751フォロワー）。いずれも令和7年3月10日現在（出典：各アカウント）



サークルガイドブックの発行

市

芸術，
生活文化など

市民の学習サークルを1冊にまとめたガイドブックです。ボランティアに協力していただけるサークルもこの冊子で調べることができます。(出典：市ホームページ)

生涯学習情報コーナーにおける
情報発信及び相談の実施

市

芸術，
生活文化など

ウェブサイトの運営や調布FMを活用した定期的な情報提供を行っています。(出典：市ホームページ)

調布エフエム 生涯学習・
市民活動のススメ

市

芸術，
生活文化など

83.8MHz調布エフエムで毎週日曜日午前11時50分から、市内の生涯学習情報を広く取り上げ、市民活動団体や講座・イベントなどを紹介する番組を放送しています。(出典：市ホームページ)



ガチョラのLINEスタンプ発売

市

メディア芸術
(映画)

「映画のまち調布」応援キャラクター ガチョラのLINEスタンプ(16種類)を発売しています。(出典：市ホームページ)



ガチョシアター

市

メディア芸術
(映画)

「ガチョシアター」は、「映画のまち調布」応援キャラクター ガチョを活用した30秒の短編映像です。(出典：市ホームページ)



ロケ・グルメマップの発行

市

メディア芸術
(映画)

映画やドラマのロケで使用された市内の飲食店を掲載した「映画のまち調布」ロケ・グルメマップを作成しています。(出典：市ホームページ)



ちょうふコミュニティサイト「ちよみっと」 市

芸術，
生活文化など

調布市からお知らせするイベント情報に加え，生涯学習・市民活動のイベントや活動団体の情報など，調布の地域により密着した情報を得ることができる地域密着型のホームページです。調布市関連のホームページに掲載されているイベント情報を，一括で検索できるポータルサイトとなっています。ちよみっとには，「Summit（サミット，頂上）」とちょうふの掛け言葉と，「ちょ」と「寄」って「見」ていくサイト，という2つの意味が込められています。（出典：市ホームページ）



調布CM ※再掲

市，城西国際大学 メディア芸術

より多くのお客様をお迎えしたい商店会と，CM製作の実習を通じて地域と連携した取組を行いたい城西国際大学メディア学部がコラボレーションし，学生が商店会をPRするコマーシャルを制作するものです。制作したCMは，調布市観光協会公式ホームページ「調布観光ナビ」でも紹介されます。なお，優秀作品コンテストで受賞した2作品については，イオンシネマ シアタス調布にてプレアド（映画の始まる前の広告上映）上映されます。（出典：市ホームページ）



収蔵資料データベースの整備・公開

郷土博物館，
武者小路実篤記念館

文化財

広く一般の活用を目指して，収蔵資料情報のデータ登録・公開等を推進します。（出典：郷土博物館令和6年度事業計画）



YouTube動画の配信

郷土博物館

文化財

郷土博物館の所蔵する古写真や美術資料を用いて，調布のまちの移り変わりを紹介する動画を作成しています。令和6年11月現在，「調布今昔写真館」と題した3本の動画をYouTubeで見ることができます。



各主要事業のホームページ

財団

芸術，
メディア芸術など

「調布国際音楽祭」，「映画のまち調布 シネマフェスティバル」では，独立したホームページを作成し，事業について，わかりやすい情報発信とその魅力を伝えています。（出典：財団基本計画）



財団報「ぱれっと」の発行

財団

芸術，
メディア芸術など

財団が発行している広報紙です。文化会館たづくり，グリーンホール及びせんがわ劇場を会場に実施する事業など，財団が主催する文化芸術事業の情報を掲載しています。（出典：財団ホームページ，財団基本計画）



ちょうふアートプラス

財団

芸術，メディア
芸術など

会員サービスである「ちょうふアートプラス」は、令和元年度のリニューアル以降、毎年会員数を増やしており、現在6000人を超えています。(出典：財団基本計画)



調布市×「ゲゲゲの鬼太郎」 聖地巡礼マップの発行

調布市観光協会

メディア芸術
(漫画)

アニメ『ゲゲゲの鬼太郎』第6期（平成30年4月から令和2年3月まで放送）には、調布市内のスポットや調布を舞台に描かれたシーンが多数登場しています。そこで、調布市観光協会では、アニメに登場した調布市内のスポットを巡って楽しんでもらうため、聖地巡礼マップを発行しています。(出典：観光協会ホームページ)



調布市×「悪魔くん」 聖地巡礼マップの発行

調布市観光協会

メディア芸術
(漫画)

アニメ『悪魔くん』の舞台・神調布には、調布市によく似たスポットが多数登場しています。調布市観光協会では、アニメに登場する神調布の街と、調布市にある実際のスポットを見比べながら、「水木マンガの生まれた街調布」の散策を楽しんでもらうため、聖地巡礼マップを発行しています。(出典：観光協会ホームページ)



「AngryBabyz (アングリーベイビーズ)」

イラスト：有限会社クリエイティブハウスポケット

©CH.POCKET Co., Ltd

3

施策を貫く主な文化芸術事業

(1)

調布国際音楽祭

【市,財団】

施策1

施策2

施策3

施策5

調布のまちを舞台に毎年初夏に行われているクラシックを中心とした音楽のお祭りです。

音楽でまちの人々に感動を届けることを目指し、「バッハの演奏」、「次世代への継承」、「アートとの連携」をテーマに、平成25年に「調布音楽祭」の名称で始まりました。

調布市在住で世界中から注目を集めるバッハ・コレギウム・ジャパンの音楽監督、鈴木雅明氏の監修の下、エグゼクティブ・プロデューサーに鈴木優人氏を据え、手作りの感覚とクオリティを両立させたラインナップで親しまれ、年々注目度も増しています。平成29年には、音楽ならではの国際色豊かなプログラムに広げるため「調布国際音楽祭」と名称を改めました。

平成28年に発足した調布国際音楽祭のオリジナル・オーケストラである「フェスティバル・オーケストラ」は、毎年、オーディションに合格した若手演奏家たちによって構成されます。また、市民ボランティア「チームCIMF」が音楽祭を盛り上げ、支えています。

会場は文化会館たづくり、グリーンホール、せんがわ劇場などの市内文化施設はもとより、深大寺や布多天神社、神代植物公園でのコンサートなど調布ならではの多様な文化資源を生かしたプログラムを実施しています。(出典：調布国際音楽祭ホームページ、財団事業計画書及び報告書、財団SNS)



調布国際音楽祭2022 第10回記念オープニング・コンサート
「かていん plays ラプソディ・イン・ブルー」©K.Miura



調布国際音楽祭2023 スペシャルガラコンサート
©K.Miura



調布国際音楽祭2023
布多天神社できくグランドピアノ vol. 2 ©K.Miura



調布国際音楽祭2024 神代植物公園フローラルコンサート
©K.Miura

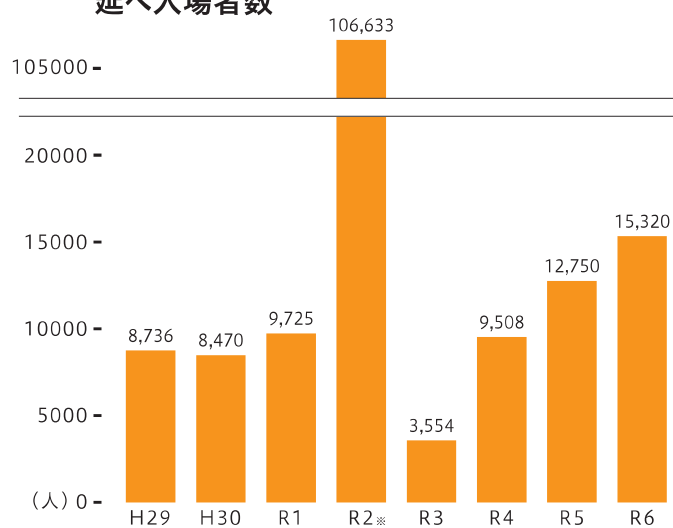
調布国際音楽祭 テーマ

2025	「Journey Through Music! 音楽の旅へ!」
2024	「MUSIC WITHOUT BORDERS」
2023	「One Melody for All」
2022	「“BACH” TO THE FUTURE～未来へつなぐ音楽祭～」
2021	「新しい世界へ!」



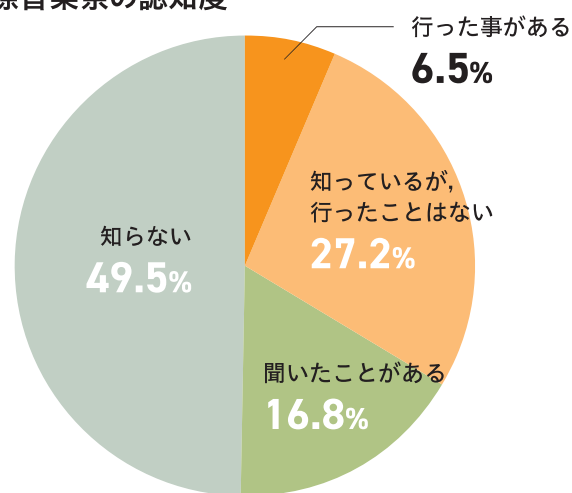
調布国際音楽祭
ホームページ

延べ入場者数



※令和2年は緊急事態宣言に伴い全公演を中止し、「@調布国際音楽祭」としてオンラインで実施。総視聴回数10万6633回，総アーカイブ配信4万7626回。

国際音楽祭の認知度



調布の文化に関するアンケート調査
(令和6年7月，調布市)より



調布国際音楽祭2024フェスティバル・オーケストラ ©K.Miura

(2)

調布よさこい【市,財団】

施策1

施策2

施策3

施策4

施策5

調布の夏を彩る「調布よさこい」は、「だれもが笑顔に てづくりよさこい」をテーマに、市民団体、地元商店街、行政機関等が調布市内のコミュニティの活性化を目的に、調布のまちづくり、市民がつくる社会づくりのために一体となって取り組むお祭です。

「調布よさこい」のルーツは、昭和52年から26回開催されてきた「調布ふるさとまつり」まで遡ります。公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団では、よさこい踊りを「老若男女誰でも楽しめ、幅広い層の市民に参加してもらえる」「発表までの間の練習の期間で、チーム内の交流が生まれる」という「交流のツール」と捉え、地域、踊り手、観客の交流を図るために、「調布ふるさとまつり」を基礎に、「調布よさこい」を立ち上げ

ました。現在では、広く市民のコミュニティ育成を目指すプログラムを、市民で構成された実行委員会で運営しています。

令和4年からは「調布市パラアート展」と同時開催とし、市内の福祉作業所等に通う方々が、よさこい用の旗や法被を制作しオープニング総踊り等で披露しました。令和6年は、市内作業所のメンバーが市内踊手と一緒に総踊りに参加したほか、一部会場をイス席をはずしてフラットにするなど、誰もが観覧できる会場づくりを行いました。

また、調布市内全域の催し物を対象に、調布よさこいで活躍しているよさこいチームを紹介してイベントを盛り上げる「出前よさこい」も実施しています。



パラアート制作旗+UD会場
(子供向けマット・ベビーカー・車いす対応)



プレイベントで作成した大旗



出前よさこい



総踊り(レクチャー付き)



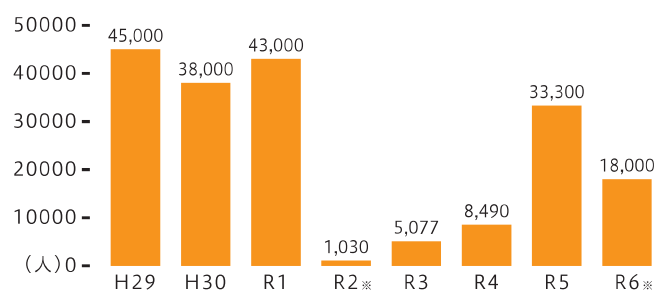
調布よさこい
ホームページ

「調布よさこい」の3つのポイント

- ・「調布ふるさとまつり」からの長い歴史…市民に親しまれ、地域に根ざしたイベント
- ・市民による実行委員会…行政主導ではないアットホームな雰囲気
- ・誰もが「参加」できるイベントを目指して…飛入り企画や「踊り」以外の参加型企画

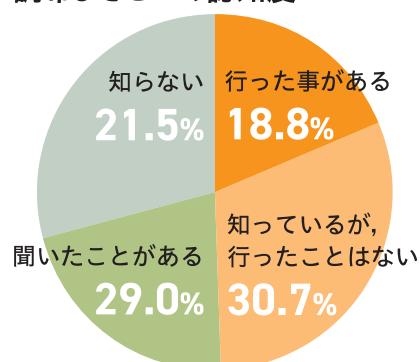
(出典：調布よさこい2024ホームページ、財団事業報告書)

延べ来場者数



※令和2年度はコロナにより中止、令和3年度は無観客・インターネット配信で実施、旧甲州街道（調布駅北口～布田駅前）での流し踊りは中止。
※令和6年度は、猛暑により流し踊りについて旧甲州街道を中止、文化会館たづくり北側道路を中断。

調布よさこいの認知度



調布の文化に関するアンケート調査
(令和6年7月、調布市)より



総踊り（市内作業所混合）



大旗競演



北側道路演舞



旧甲州流し

(3)

調布市民文化祭

【市, 市教育委員会, 財団, 調布市文化協会】

施策1

施策3

施策5

調布市民文化祭は, 調布市民の芸術・文化・学習活動の発表の場として, 広く市民に公開する中で, 市民が相互に刺激し合うことにより, 調布市の文化交流とコミュニティ意識の向上を図ることを目的に実施しています。

「みんなでつくろう市民の文化」をテーマに, 文

化会館たづくりやグリーンホールを会場に, いけばなや工芸美術などの展覧・展示会, 囲碁, 将棋, 演劇, 民謡, 歌謡などの大会・発表の場として長い歴史を持ち, 毎年, 約1か月間にわたり開催します。

また, 同時期に地域文化祭として, 各公民館で, 東部地域文化祭(東部公民館), 西部地域文化祭(西部公民館), 北部地域文化祭(北部公民館)がそれぞれ開催されます。

市民文化祭は, 市民の文化活動の貴重な発表の場として, また多くの市民の鑑賞の場としての役割を果たしています。

(出典: 調布市民文化祭ホームページ, 財団事業報告書)



文化フェスタ
手作り体験コーナー



文化フェスタ
囲碁・将棋青空指導



文化フェスタ エスペラント展



文化フェスタ 野外ライブコーナー



第68回調布市民文化祭 開会式

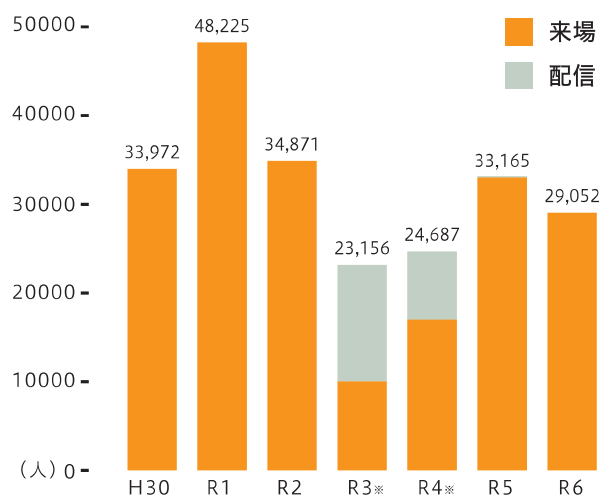


ハワイアンフラ

調布市民文化祭 テーマ

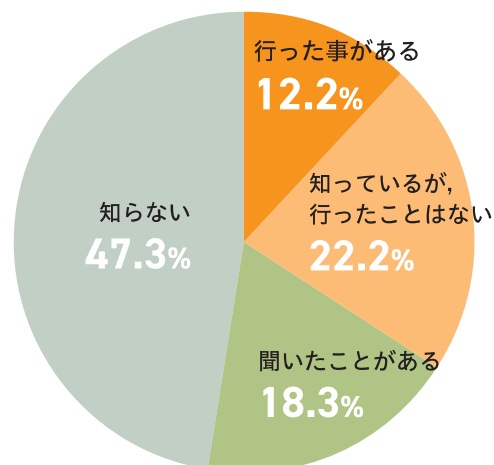
第69回(令和6年度)	「広がる出会い 文化のチカラ」
第68回(令和5年度)	「誰もが笑顔 ここから広がる文化の輪」
第67回(令和4年度)	「みんなでつくろう市民の文化」
第66回(令和3年度)	「明日へ響け 文化の鼓動」
第65回(令和2年度)	「今こそたやすな」

延べ入場者数



令和2年度と令和3年度は【展覧・展示の部】の入場者数及び出展者、参加者、一部関係者のみの入場者数を含む。地域文化祭(公民館)分を含みず。

調布市民文化祭の認知度



調布の文化に関するアンケート調査
(令和6年7月、調布市)より



工芸美術展



地域文化祭 くつろぎコンサート



地域文化祭 美楽



地域文化祭 レザークラフト夢工房

(4)

映画のまち調布 シネマフェスティバル

【市、財団、映画のまち調布 シネマフェスティバル実行委員会】

施策1

施策2

施策3

施策4

施策5

映画のつくり手にスポットを当て、素晴らしい映画制作の技術を未来につなげる映画祭です。

昭和30年代の日本映画全盛期には「東洋のハリウッド」にたとえられた調布で、28回開催された「調布映画祭」が、平成30年に「映画のまち調布 シネマフェスティバル」としてリニューアルしました。

調布市内に集積している映画・映像関連企業、団体（株式会社角川大映スタジオ、日活調布撮影所、株式会社ジャンゴフィルム、高津装飾美術株式会社ほか）と連携し、映画・映像をつくるまちならではの独自性があるイベントを展開することで、「映画のまち調布」のPRを行い、映画・映像を楽しむ機会を創出することを目的として、毎年2月から3月上旬にかけて開催しています。

また、調布における映画の歴史及び映像文化に触れることにより、調布市に根ざした文化芸術の振興と、観光・産業等の分野と連携した地域活性化を目指しています。

また、映画賞授賞式、映画制作の技術スタッフや監督によるトークショー付きの映画上映会のほか、上映作品に関連した小道具や設計資料、調布市立図書館所蔵の映画資料の展示や、プロの映画製作の技術スタッフが指導する撮影体験ワークショップ等、各種イベントを開催します。今後は、開催期間前に、関連企画として活動弁士・生演奏付きの上映会、35mmフィルム作品の名画上映会、ユニバーサル上映会、メディア芸術の要素を取り入れたワークショップなどを実施することで、一貫性がある事業を展開し、年間を通して映画・映像文化に触れる機会を創出します。（出典：映画のまち調布 シネマフェスティバル2025ホームページ・SNS）



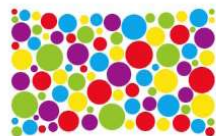
映画のまち調布 シネマフェスティバル2024
第6回映画のまち調布賞 集合写真



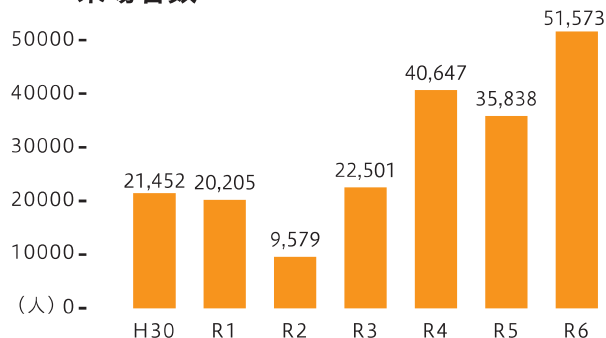
映画のまち調布 シネマフェスティバル2024
CINE_WORKS 展—映画制作の世界—



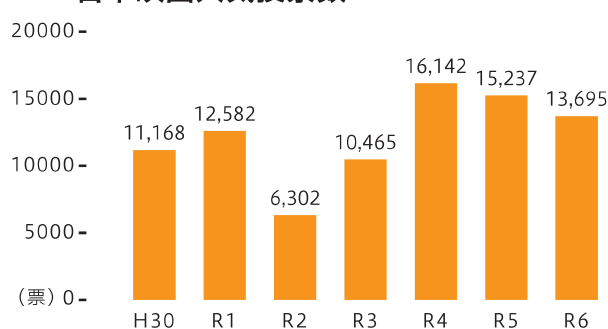
映画のまち調布 シネマフェスティバル2024
日本映画人気投票選出作品 トークイベント



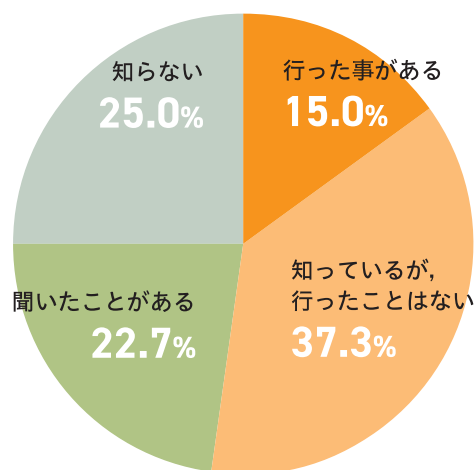
来場者数



日本映画人気投票数



映画のまち調布 シネマフェスティバルの認知度



調布の文化に関するアンケート調査
(令和6年7月、調布市)より

「映画のまち調布賞」これまでの受賞作品及び受賞者(敬称略)

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
作品賞	『万引き家族』	『天気の子』	『Fukushima 50』	『花束みたいな恋をした』	『映画 すみっこぐらし 青い月夜のまほうのこ』	『すずめの戸締まり』	『鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎』
撮影賞	『モリのいる場所』 月永雄太	『新聞記者』 今村圭佑	『Fukushima 50』 江原祥二	『花束みたいな恋をした』 鎌刈洋一	『護られなかった者たちへ』 銅島淳裕	『月の満ち欠け』 水口智之	『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』 小林拓
照明賞	『空飛ぶタイヤ』 長田達也	『日日是好日』 水野研一	『カツベン!』 長田達也	『ヤクザと家族 The Family』 平山達弥	『護られなかった者たちへ』 かげつよし	『銀河鉄道の父』 佐藤浩太	『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』 岸本秀一
録音賞	『空飛ぶタイヤ』 栗原和弘	『こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話』 鈴木 肇	『悪の華』 柳屋文彦	『花束みたいな恋をした』 加藤大和	『そして、パトンは渡された』 白取 貢	『劇場版 TOKYO MER 走る緊急救命室』 湯脇房雄	『ゴジラ-1.0』 竹内久史
美術賞	『モリのいる場所』 安宅紀史	『キングダム』 斎藤岩男	『カツベン!』 磯田典宏	『るろうに剣心 最終章 The Beginning』 橋本 創	『護られなかった者たちへ』 松尾 文子	『耳をすませば』 相馬直樹	『福田村事件』 須坂文昭
編集賞	『ちはやふる-結び-』 穂垣順之助	『翔んで埼玉』 河村信二	『蜜蜂と迅雷』 石川慶・太田義則	『浅田家!』 上野聡一	『メタモルフォーゼの縁側』 木村悦子	『劇場版 TOKYO MER 走る緊急救命室』 菅野詩織	『ゴジラ-1.0』 宮島竜治
功労賞 (～第4回) 特別賞 (第5回～)	南 孝二 高津装飾美術株式会社 代表取締役会長	紅谷愼一 (録音技師)	石原まき子 株式会社 石原プロモーション 代表取締役会長	根岸 誠 東映デジタルラボ(株) テクニカルアドバイザー	武藤光成 株式会社アーク・システム取締役会長 宮本まさ江 (衣裳・スタイリスト)	株式会社東京現像所 新藤次郎 (プロデューサー)	株式会社白組 柴崎憲治 (音響効果技師)

4 推進体制

(1) 市の役割

本計画の将来像「豊かな文化芸術の薫り広がるまち 調布」の実現に向けて、多彩な文化資源を生かし、行政としての役割を組織横断的連携の下、計画的に取り組みながら、市の文化芸術を推進します。

① 市民の文化芸術活動を育む 環境整備の充実

市内で活動する市民による文化芸術活動に必要な場所の確保や、活動の成果を発表する機会の確保をはじめ、文化芸術活動のより一層の充実に向けた環境整備に取り組むことで市民の文化芸術活動を支援します。

② 文化芸術の担い手となる 人材の育成・専門性の向上

調布ならではの多彩な文化芸術の担い手となる人材の育成をはじめ、文化芸術の振興に取り組む専門人材を有する公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団と連携し、更なる専門性の向上や財源確保に向けたファンドレイジングに取り組む力を高める研修の実施や自己啓発の支援など環境整備に取り組みます。

③ まちの魅力を高める 文化芸術の推進に係る情報発信

調布ならではの文化芸術の魅力や付加価値をはじめ、文化芸術を活用した他の関連分野との取組について、各種広報媒体の活用や多様な主体と連携するなど創意工夫を凝らしながら、より効果的な情報発信に取り組めます。

(2) 関係機関・団体との連携・協力

主たる関係機関・団体との連携、協力の下、文化芸術を推進します。

① 公益財団法人調布市文化・ コミュニティ振興財団



財団では、平成6年の設立以来、文化会館たづくりやグリーンホールを拠点に、映像文化・メディア芸術事業、美術振興事業、生涯学習事業、地域コミュニティ活性化事業、芸術振興事業など幅広い事業を展開するとともに、令和元年度以降は、せんがわ劇場において、演劇公演の制作をはじめ、様々な事業の企画・運営に取り組んでいます。

施設の整備・運営においては、文化施設3館のスケールメリットを生かし、市民による文化芸術活動の拠点となる施設の適切な維持・管理に向けて、コンプライアンスの遵守の下、ライフサイクルコストの縮減及び長寿命化を図るため、継続的な一体的管理による改修工事や、施設利用者の安全・安心を第一とした適切な維持・管理に取り組んでいます。

また、財団基本計画に基づき、地域の多彩な人材や関係団体との連携をはじめ、地域の貴重な文化資源の活用や、市が標ぼうする「パラハートちょうふ」の理念の下、共生社会の充実に向けた文化芸術の推進に取り組んでいます。更に、令和6年度からは、調布市国際交流協会の事業継承により、財団の定款に新たに国際交流事業を位置付け、円滑かつ安定的な業務運営はもとより、

市の文化芸術施策との連携など、新たな事業展開に応じた組織体制を整備しています。

こうした取組経過を踏まえ、引き続き財団を主体とした文化施設3館の連携及び各施設のコンセプトを生かした効果的な施設運営における創意工夫や、施設利用者の利便性の向上に取り組みながら、多彩な文化芸術に触れる機会が充実し、市民の文化芸術活動が一層活性化するため、市基本計画の施策に位置付けた基本的取組を推進する役割を担う必要があります。

今後、本計画の将来像「豊かな文化芸術の薫り広がるまち 調布」の実現に向けて、財団との更なる連携・協力の下、市の文化芸術を推進します。



② 調布市文化協会

文化協会は、芸術・文化の発信と振興を通し、加盟団体の発展と相互の連絡・調整を図り、市民の心の豊かさの向上を目的として、市民文化祭をはじめ実技講座や講演会など、多彩な活動を推進しています。

文化協会の歴史は、昭和23年調布町文化会から始まり、昭和30年の市制施行に伴い、調布市文化会に改称し、昭和41年には12団体により調布市文化協会が発足しています。

こうした長年にわたる市の文化の発展に寄与する中心的な関係団体として、引き続き、各種事業を連携して取り組みます。

調布市文化協会加盟団体

(令和6年4月時点：20団体・161グループ)

いけばな連盟

歌謡同好会連盟

写真連盟

美術協会

囲碁連盟

吟剣詩舞道連盟

将棋連盟

フラワーデザイン協会

エスペラント会

書道連盟

民謡連盟

演劇協会

茶道連盟

大正琴連盟

民謡舞踊好友会

音楽連盟

三曲協会

ハワイアンフラ協会

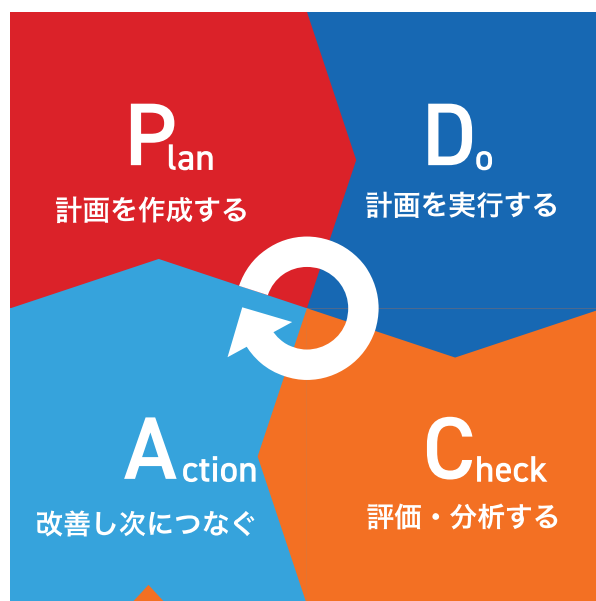
洋舞協会

工芸美術協会

(3)

進行管理

本計画を着実に推進するため、PLAN（計画）、DO（遂行）、CHECK（評価・分析）、ACTION（改善）のPDCAマネジメントサイクルによる行政評価と連動した計画の進行管理を推進します。



調布市基本計画

行政評価の取組

施策評価
施策マネジメントシート

事務事業評価
事務事業マネジメントシート

施策20 まちづくり指標

まちづくり指標	基準値	目標値
1年間で文化芸術を鑑賞，または自ら文化芸術活動を行った市民のうち，市内公共施設を利用した市民の割合	42.5% (令和4年度)	65.0% (令和8(2026)年度)
文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場事業の施設利用率 (ホール系／会議室系)	75.3%／71.5% (令和3年度)	90.0%／85.0% (令和8(2026)年度)

施策21 まちづくり指標

まちづくり指標	基準値	目標値
文化遺産の数(国・東京都・市指定等文化財)	78件 (令和3年度)	84件 (令和8(2026)年度)
郷土博物館・実篤記念館の入館者数・事業参加者数 (実篤公園利用者を含む)	4万1,014人 (令和3年度)	5万5,000人 (令和8(2026)年度)